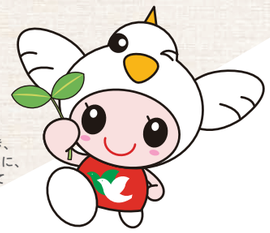
平和堂
CSR報告書
2020

HEIWADO CSR REPORT

平和堂グループの価値創造

平和堂は経営理念の「5つのハトのお約束」を
CSR（企業の社会的責任）活動の重要課題と位置付け、
ステークホルダー※1の皆様に価値をご提供し、ともに持続可能な成長を
果たしていくために、様々な取組みを行っています。



平和堂イメージキャラクター
「はとっぴー」
多くのお客様により広く、平和堂の活動を知っていただき、末永く愛される会社となるために、平和堂イメージキャラクターとして活動しています。

平和堂グループ憲章

全従業員の物心両面の幸福（しあわせ）を追求するとともに、お客様と地域社会に貢献し続ける企業となる

※1 ステークホルダー：株主や従業員、お客様、取引先、地域社会など、企業に対して影響を与え、利害関係を持つ組織や個人。
※2 ダイバーシティ：性別、国籍、出身地、年齢、価値観、信条など、この社会に生きる人々の多様性。

編集方針

平和堂のCSR活動に関する報告も今年で21回目となりました。本書では、平和堂の企業理念である「５つのハトのお約束」を重点課題と位置づけ、これに沿った編集内容としています。

また、巻頭特集では社会的課題を背景に、その解決に向けて「地域共創」に取り組んだ活動をレポートします。

本報告書を通じて、当社のCSR活動に対する理解を深めていただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

報告対象組織
平和堂本部および全店舗（154店舗）
※平和堂本部および全店舗（154店舗）を基本とし、連結子会社を含む場合は本文に記載しています。

報告対象期間
2019年度
（2019年2月21日から2020年2月20日まで）
※ 関連する報告で一部この期間が前後している場合もあります。

参照ガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」
GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」

発行日
2020年5月（次回発行予定2021年5月）

※ 2019年度のCSR活動を報告するにあたり、データを精査、これを修正した結果、2018年度の報告書と実績数値が異なっている項目があります。また、端数処理のため、合計が合わない項目があります。

レポートに関するお問い合わせ
株式会社平和堂　総務部 CSR推進室
〒522-8511　滋賀県彦根市西今町1番地
TEL（0749）23-3150　FAX（0749）23-3118
URL https://www.heiwado.jp/

もくじ

平和堂グループの価値創造 …… 1
トップメッセージ …… 3
巻頭特集
平和堂の「地域共創」…… 7
平和堂のCSR活動
奉仕のハト …… 11
創造のハト …… 14
感謝のハト …… 20
友愛のハト …… 24
平和のハト …… 30
CSR活動一覧 …… 42
平和堂グループのCSR活動 …… 44
平和堂財団の活動 …… 46
CSRマネジメント …… 48
GRIガイドライン対照表 …… 50
読者とのコミュニケーション …… 54
第三者意見 …… 55

地域密着ライフスタイル総合(創造)企業として「地域共創」の取組みを深化させていきます

私たちを取り巻くライフスタイルや地域社会が大きな変化を見せる中、平和堂が取り組む「地域共創」に込めた想いを語ります。

PROFILE

株式会社平和堂 代表取締役社長兼COO 営業統括本部長

平松（ひらまつ） 正嗣（まさし） 1957年11月19日 生まれ

1981年4月 ソニー㈱入社
1997年7月 ㈱スクウェア(現:㈱スクウェア・エニックス)入社
2010年1月 ㈱平和堂入社顧問
2010年5月 当社常務取締役社長補佐兼経営企画部管掌
2011年2月 当社常務取締役経営企画本部長
2012年2月 当社常務取締役店舗営業本部長
2013年2月 当社常務取締役営業統括本部長
2015年5月 当社専務取締役営業統括本部長
2017年5月 当社代表取締役社長兼COO兼営業統括本部長

平和堂に人が集う「コミュニティ」の場を創造したい

平和堂の活動基盤は、平和堂グループ憲章にもある「お客様と地域社会に貢献し続ける企業」であることです。現在、人口減少や少子高齢化に象徴される様々な地域の課題がありますが、その課題に対して、「地域共創」を掲げ、地域の持続的な成長に貢献していくための様々な取組みを行ってまいりました。

この「地域共創」という言葉には、地域の皆様と一緒に地域経済を活性化し、明るく元気で、健康な地域を創っていきたいという想いを込めています。そのためには、コミュニティの活性化が重要だと考えています。店舗でお買い物をしていただくだけでなく、地域の皆様が、常に来店したくなる場づくりや、参加したくなる各種イベントの開催などを推進しています。

世界一の高齢国である日本は、今後、ヘルスケア領域の課題が急増してくることが予想されます。これからの店舗は来店者の健康チェック機能や、健康的な食材・レシピの提案が必要です。それに加え、店舗の中心に交流ゾーンを設けるなどして、「コミュニティプラザ機能」を高め、地域の皆様の生活に楽しみが生まれ、健康寿命の延伸にも貢献できるようになればと考えています。

▲多目的スペース（平和堂坂本店）

コミュニティとしての場を創出▶（フレンドマート交野店）

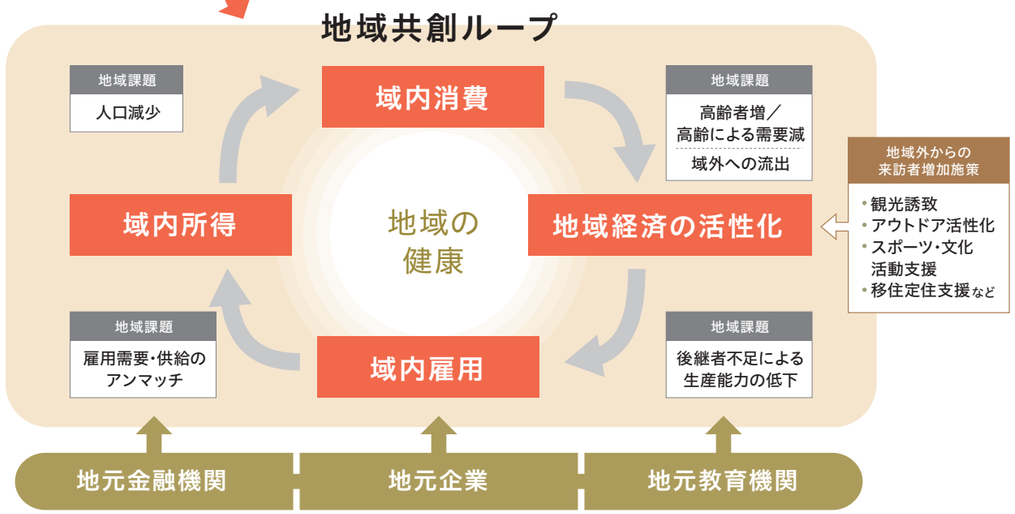
地域の持続的な発展に多方面から貢献する

事業を通じた「地域共創」の取組みとして、地域の農作物や特産品の特長を生かし、“加工”することで平和堂でしか手に入らないオリジナル商品として販売をしています。例えば、滋賀県の一部の地域で青果売場の店頭を飾る、人気の彦根梨やモリヤマメロン。この人気の果物を平和堂ストアブランド「E-WA！」のチューハイとして加工販売し、大変ご好評をいただいています（詳しくはP16を参照）。しかし、これからは生産者の担い手不足により地域の農業の存続自体が危ぶまれてきます。地域経済の基盤である農業の継続、そしてその結果、安定的商品供給、運搬距離の短縮によるCO_2削減にも繋がる取組みとして、平和堂では、地域農業と連携しながら、持続的な農業支援を検討し、地域の健康を考えてまいります。

また、2018年3月に滋賀県内全店舗をビワイチの「サイクル・サポートステーション」（詳しくはP35を参照）として登録しましたが、サイクルラック、自転車の修理工具の設置だけでなく、店舗内で地域の観光、特産品の紹介をするなど店舗独自の取組みも始められています。

一方、世界的な課題となっている廃プラスチック問題や食品ロス問題に対して、社内に委員会を立ち上げ検討を進めています。平和堂は古くからレジ袋の削減に取り組んできましたが、人々の価値観も「モノを消費する」ことから、「モノを大切にしよう」とする傾向へと変化が見られるようになりました。より長く使っていただけるもの、直して使っていただけるものといった「循環型社会」を意識した品揃え、サービスを推進してまいります。

■長期ビジョン達成に向けての戦略イメージ



「地域共創」のためには、地域全体をもっと知ることが大切

地域密着ライフスタイル総合（創造）企業としての取組みも、様々な広がりを見せています。例えば、滋賀県長浜市が世界に誇る文化遺産「長浜曳山まつり」を次世代に継承していくために、アル・プラザ長浜では、「子ども歌舞伎」の上演やパネル展示を行い、その魅力を発信するお手伝いをしました。また、フレンドマート日野店が主体となり、日野町の特産品の魅力を伝えるイベント「日野菜フェス」を、地域の「氏郷まつり」との共同開催として企画しました。クラウドファンディングを利用し、多くの皆様から賛同をいただきました。持続可能な支援を考えた時、これからの地方創生には様々なアイデアが求められると思います。

▲日野菜フェスを企画・開催（フレンドマート日野店）

▲曳山まつりのパネル展示（アル・プラザ長浜）

このような取組みを進めるため、地域においてどのような変化が起きているのかを理解することが大切だと考えています。そのため店舗の管理を店舗規模に関係なく、エリアで考える「エリアマネジメント制」に変更しました。ライフスタイル、地域活動といった様々な地域情報を共有することで、より地域のお客様に喜ばれる店舗づくりを推進していきます。

お客様に向き合い、地域にとってなくてはならない存在に

「エリアマネジメント制」は、地域のことを知るだけでなく、店舗オペレーションの向上も期待できます。ドミナントエリア※1内の店舗同士で店休日や営業時間をカバーし合うなど地域内での連携を高めることで、お客様にとっても社員にとっても有益な店舗運営が可能となります。

また、お客様により充実したライフスタイルを提案するために、衣料品、住居関連品について事業統合し、生活全般を見据えたコンセプトに基づいた品揃えと店づくり（売場づくり）に取り組んでいます。

「地域共創」の実現には、平和堂で働く一人ひとりの成長が必要不可欠です。そのために、「風通しの良い職場」を目指し、社内SNSのさらなる活性化、ICTやAIの活用による業務改革を推進し、社員同士のコミュニケーションやお客様に向き合う時間を少しでも増やしていきたいと考えています。

これまでにないスピードで変化する時代の中で、お客様、そして地域に対して、これまで以上に真摯に向き合い、「平和堂がお役に立てることは何か?」を常に考え、平和堂グループが一丸となって取組みを推進してまいります。

※1 ドミナントエリア
商圏が重なる店舗を一つにまとめた地域のこと。

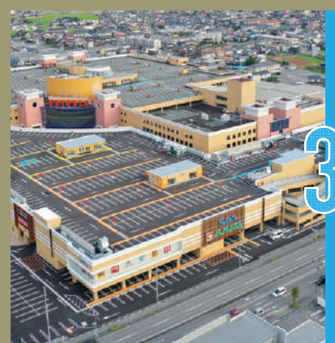
巻頭特集

平和堂の「地域共創」

平和堂グループは、地域密着のライフスタイル総合（創造）企業として、
「地域共創」の理念を成長戦略の一つに掲げ、様々な取組みを行っています。
リージョナルカンパニーとして地域の皆様に寄り添いながら、地域を活性化させる
平和堂グループの取組みをご紹介します。

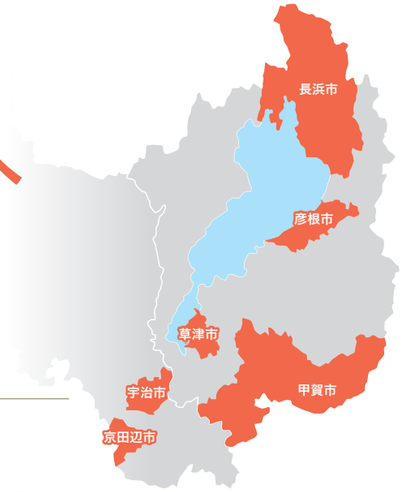
1 地域の健康サポートへ向けた取組み

2 ホーム・サポートサービスの拡充に向けた取組み



3 ライフスタイルの提案に向けた取組み

1 地域の健康サポートへ向けた取組み



開催地が6地域となりました
滋賀県：草津市・甲賀市・彦根市・長浜市
京都府：宇治市・京田辺市

2019年度 参加者数
約3,500名

「美と健康」をテーマにした体験・相談型イベント

「美と健康フェア」「ハッピーライフフェア」開催

平和堂では、地元自治体や病院・団体などと連携・共催して、健康相談と健康チェックが気軽にできるイベントを開催し、地域の皆様が健康でいきいきと暮らす街づくりに貢献しています。

アル・プラザ長浜

自治体との連携

長浜市で新規開催。保健師、健康推進員と連携し、「ロコモチェック」「野菜計量体験」による「運動・身体活動」「栄養・食生活」の啓発を行いました。

アル・プラザ宇治東

宇治徳洲会病院との共催

健康測定体験や、栄養・健康相談会による「健康行動」の啓発を行いました。

パラスポーツから広く楽しめるスポーツへ

ファミリーボッチャ大会を初開催

リオパラリンピックにおいて日本チームが銀メダルを獲得し、話題となったパラスポーツ「ボッチャ」※1。競技の親しみやすさの一方でその奥深さから、障がいの有無や老若男女問わず楽しめるスポーツへの拡大を応援しています。10月22日、滋賀県守山市民体育館において初めてとなるファミリーボッチャ大会を開催しました。

ファミリーボッチャ大会参加者
128名

※1 ボッチャ
ジャックボールと呼ばれる的球に自分のチームのボールをいかに近づけられるかを競う、「地上のカーリング」とも呼ばれるスポーツ。

「食」の大切さを届ける

食育イベント「レシピ」

地域のお子様を対象とした食育イベント「レシピ」を全9店舗で実施し、約5,300名のお客様にご参加いただきました。

このイベントは、「ストーリー仕立てのパフォーマンス」「野菜の〇×クイズ」「野菜のクイズラリー」などを通して、食材をバランスよく食べることの大切さを楽しく考えてもらうイベントです。どの店舗でもお客様に笑顔でご観覧・ご参加いただき心に残る「食育イベント」となりました。

【実施店舗】ビバシティ平和堂、アル・プラザ八日市、アル・プラザ水口、アル・プラザ堅田、アル・プラザ城陽、アル・プラザ宇治東、アル・プラザ鶴見、アル・プラザベル、アル・プラザ津幡

▲野菜の〇×クイズでは、平和堂の5ADAY食育インストラクターも登場

▲平和堂オリジナル食育ショー

2 ホーム・サポートサービスの拡充に向けた取組み

ホーム・サポートサービス取扱い店舗とエリア
見守り協定締結市

「元気な暮らし」を皆様へ

心のこもったサポートで、暮らしの不便を解消します。

2010年にスタートした平和堂ホーム・サポートサービス※1は、2019年度にはサポートエリアが滋賀県全域となりました。現在の取り扱い店舗は、県下75店舗中30店舗（2020年2月20日現在）。地域の皆様のご要望を伺いながら、さらにサービスの充実に力を入れていきます。

また、配達時にお客様の体調等の異変に気づいた場合に、市の担当部局に連絡し対応する協定（見守り協定）を滋賀県内6市と締結し、地域全体で高齢者等を見守る体制にも協力しています。

ホーム・サポートサービスエリア
滋賀県全域
に拡大

※1 平和堂ホーム・サポートサービス
食品から生活必需品までお客様に代わって買い物を行い、購入したものをご自宅までお届けするサービス。

VOICE スタッフの声

平和堂とお客様をつなぐ架け橋に

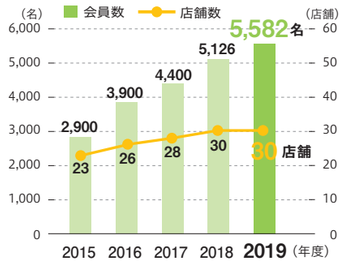
- お顔の見えない電話応対でも「いつもありがとう」「あなたも体に気を付けて」心温まる言葉がうれしいです。
- 「お互いさま」の精神として社会貢献事業に少しでも関わることができ充実しています。
- 配達時にお客様の体調や変化にいち早く気付けるようにしています。

▲ホーム・サポート開業店 彦根銀座店のスタッフの皆さん

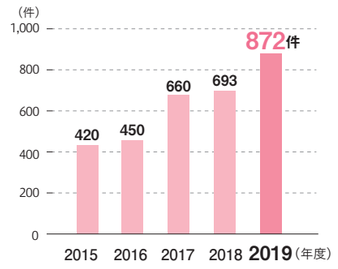
お客様の声

腰痛に悩まされている今日この頃、日々の買い物をどうしようと思っていた矢先に、このサービスを紹介してもらいました。配達料が安く、しかもいつも新鮮な品物を届けてくださいます。またスタッフさんの笑顔にも元気づけられ、本当に感謝・感謝です。（T・N様）

会員数と取扱い店舗数の推移



暮らしのお手伝い依頼件数の推移



暮らしに安心を

暮らしのお手伝いサービスメニューの充実

「暮らしのお手伝い」ご依頼件数も年々増加傾向となっており、それに伴いサービスメニューについても充実させています。特にご依頼の多いメニューは冬場には灯油配達、夏は草刈や庭木剪定、エアコンクリーニングなどで、年末になると廃材処分のお手伝いなどの依頼もあります。現在、このサービスは滋賀県全域で実施しており、お客様が安心して暮らせるよう取り組んでいきます。

▲庭木剪定

▲エアコンクリーニング作業

3 ライフスタイルの提案に向けた取組み

リニューアルオープンのキーワード
「NEW FAVORE,NEW LIFE.」
「ファボーレは“お客様満足度No.1”を目指して生まれ変わる」、「新しいファボーレが新しい生活を提案する」という思いが込められています。

暮らしに彩りを

アル・プラザ富山リニューアルオープン

2019年10月19日（土）、関連会社の富山フューチャー開発株式会社が運営する「フューチャーシティファボーレ」がグランドオープンを迎え、北陸最大級のショッピングセンターとして生まれ変わりました。核テナントであるアル・プラザ富山でも、衣料品、住居関連品売場などのショップ化に取り組み、よりお客様のライフスタイルに寄り添った提案を行っています。

	ファボーレ全体（本館、新館、別館）	うち、アル・プラザ富山
売場面積	約69,000㎡ 増床前と比べ約1.25倍	約12,380㎡ 直営約9,340㎡ テナント約3,040㎡
専門店数	180店舗	10店舗
駐車場台数	約3,650台	
所在地	富山県富山市婦中町下轡田165番地の1	

暮らしに潤いを与えるショップづくり ～新しくオープンした売場の一部をご紹介します～

ボーテマルシェ

「化粧の力で毎日を元気に！」をコンセプトに、化粧について知りたい、試したいが詰まったショップ。

トリポートカフェ

平和堂旅行センター（TRIP）と平和堂ほけんあるプラス（SUPPORT）にカフェを融合。気軽に立ち寄れるくつろぎ空間。

ゆたりら

寝具類からパジャマなどの小物、インテリアまでトータルで取り揃え、快適な眠りをお手伝い。

クレモア

洋服・雑貨などオンにもオフにも対応したアパレルショップ。着こなしやコーディネイトのローテーションの提案も豊富。

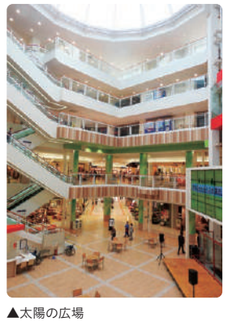
キッズフォレスト

お子様に関わる商品をワンストップで購入できるショップ。遊び場スペースを設置し、体感・体験型の売場をご提案。

パブリックスペース

太陽の広場では様々なイベントを開催しています。また、お子様にご利用いただけるキッズスペースも充実するなど地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。

▲キッズスペース


▲太陽の広場

VOICE 支配人の声

多様化するライフスタイルに寄り添う新たな価値の創造

アル・プラザ富山
支配人 東 之嗣

アル・プラザ富山は、衣料品・住居関連品のゾーンを21のショップとして、リニューアルオープンさせて頂きました。富山県No.1を目指すショッピングセンターの構築と連動し、お買い物・時間消費が楽しいライフスタイル提案型ショップを目指しています。

お客様のライフスタイルの変化に素早く対応し、5年・10年先にも地域のお客様からご愛顧いただける店舗作りを、従業員全員で進めてまいります。

お客様へのサービスを第一とします

平和堂は、お客様に快適にお買い物をしていただくために、様々な角度から取組みを続けています。

お客様の声に基づく企業経営

お客様の声を快適なお店づくりに活かします。

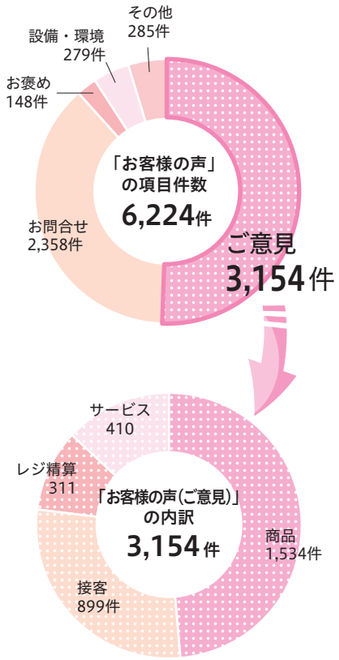
日々お買い物いただくお客様より、商品や売場のお尋ねからレジでの応対、接客に至るまであらゆるお声を頂戴しています。お客様からの大切なご意見を漏らさずに店舗や各部署へ伝え、ご期待にお応えした店づくりを心がけています。

2019年度
「お客様の声」の件数

6,224件

お客様からのご意見を幅広くお伺いしています

▲「お客様ご意見ボード」の設置



▲「お客様の声」の件数と内訳

お客様の笑顔が私たちの励みです。

～商品だけでなく、ご満足を提供しています～

お客様の声

先日買い物をしている際に体調不良だった娘が突然嘔吐をして売場を汚してしまいました。近くにいらっしゃった従業員さんがすぐに対応してくれ掃除をした後に、パニックで十分なお礼も言えなかった私に子どもの体調を気遣うお言葉をいただきました。(30代女性・メール)

お客様の声

雨に濡れてベビーカーを押していたら自転車に乗った従業員の方が傘を貸してくれました。9歳の子どもは濡れずにすみましたがご自身が濡れたまま走って行かれました。感謝の気持ちでいっぱいです。　(30代女性・電話)

お客様の声

急遽お弁当の手配が必要となり、急なお願いにもかかわらず丁寧にかつ柔軟に対応いただき嬉しかったです。頼めるところが他になく困っていたのですが、すぐに在庫を確認してお店でできる提案を出していただき本当に助かりました。　(50代女性・メール)

ノーマライゼーションの推進

「すべてのお客様にお買い物を楽しんでいただく」ことを目指します。

平和堂は、一人ひとりの人権を尊重し、地域社会につくす企業として、ノーマライゼーション※1を推進しています。その一つとしてクリンリネス※2が行き届き、安全で使いやすい店舗施設を提供しています。また、社員一人ひとりがすべてのお客様にいつも気を配り、自ら声をかけ必要に応じたお手伝いをしてお役に立つことで、すべてのお客様にお買い物を楽しんでいただける店舗を実現していきます。

※1　ノーマライゼーション
障がい者や高齢者などハンディのある人が、一般の人と同じように生活、活動できるように、社会の方を変えていこうという考え。
※2　クリンリネス
店内全体を清潔に保つことはもちろん、従業員の身だしなみを整えること。

災害時の避難誘導

平和堂のノーマライゼーションの考え方に基づき、災害時においてもすべてのお客様に安全に避難していただけるよう、避難訓練時に車いすでお買い物をされている方の避難誘導を想定しての訓練を実施しました。

避難訓練の様子▶
(アル・プラザ野洲)

お客様にご安心いただくために、目線を合わせてお声がけ

後輪のブレーキを確認。必ず逆手で持ちます。

◀▲避難訓練の様子
(アル・プラザ野洲)

降りる時は必ず後ろ向きに。重たい下方は力のある男性が担当。

食品レジ「コミュニケーションボード」の設置と活用

食品レジでのコミュニケーションがスムーズにできるよう、聴覚に障がいのあるお客様からご提案をいただき、「コミュニケーションボード」を全店で導入しました。このボードはお客様にお尋ねする事項を分かりやすくまとめたもので、聴覚に障がいのあるお客様や外国のお客様などとの応対に活用しています。

▲コミュニケーションボード

このボードだけでなく、ご要望に合わせてジェスチャーや筆談を交えて心のこもった笑顔での応対を心がけています。

VOICE 店次長の声

お客様にお買い物を楽しんでいただける店に!

混雑していることが多い食品レジで、一から筆談させていただく事は、お客様も大変気を遣っておられることを改めて知りました。ゆっくりと気持ちよくお買い物をしていただくためのツールを教えていただき、お客様に感謝しています。

フレンドマート深江橋店 店次長　林 輝彦

お客様満足度向上に向けた ICT の活用

平和堂アプリやSNSを利用し、個々のお客様への発信を増やします。

近年の新聞購読率低下と、スマートフォンの急速な普及に対応し、スマートフォンアプリやSNS※1を活用した情報発信を行っています。また、お客様の動向が多様化する中、ご登録をいただいた情報をベースに、よりお客様一人ひとりに合わせたおすすめ情報をタイムリーに発信しています。2020年2月末には LINE チラシの運用も開始して、新商品やおすすめ商品、キャンペーンなどのお知らせを多くのお客様に届くようにしました。

今後は、キャンペーン応募といったお楽しみ機能を展開するなど、お客様のお買い物満足度をさらに高められるようアプリ会員様の利便性を高めていきます。

▲平和堂モバイルHOP会員募集チラシ

※1　SNS
ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。WEB上で人と人とのつながりを促進するコミュニケーションサービス。

平和堂スマートフォンアプリ「モバイルHOP会員様」
約74万人

「らぶきっず会員様」
約16万人

公式インスタグラムフォロワー数
約2.5万人

平和堂公式YouTubeチャンネル

お客様と身近なコミュニケーションを図りたい、お客様により楽しんでもらいたいとの思いから誕生した平和堂公式 V-tuber 従業員「鳩乃幸（はとのさち）」。デビューから1周年を迎えYouTube、SNSによる動画配信や店頭の大型モニターに登場して接客・試食販売をするなど大活躍でお客様にも喜んでいただいています。このようなV-tuber 従業員の役割としては、今までにない店舗でのお買い物の楽しさを演出するのはもちろん、「働き方改革」と言われる近年においても、とても大きな役割を果たしています。

また、YouTube チャンネルでは平和堂イメージキャラクター「はとっぴー」の活動や、平和堂オリジナルレシピ「美味食彩」、商品やイベントの紹介を配信しています。

▲平和堂公式V-tuber「鳩乃幸」

▲平和堂公式インスタグラムアカウント

Download on the App Store

GET IT ON Google Play

平和堂公式SNS
https://heiwado-otoku.jp/heiwado/info/sns/

よい品を販売します

平和堂は、品質がよい、安全な商品を販売するのはもちろん、
社会や環境に貢献するような商品のラインナップを
拡充しています。

地産地消の推奨

地元食材・素材をPR、普及に貢献

地場野菜の美味しさ再発見

クッキングサポートコーナー※1では毎月1日に「地域密着の取組み」として、地元の名産品を使用したメニュー提案や市町の健康課発信のレシピを積極的に紹介しています。

アル・プラザ敦賀では地元の敦賀合同青果株式会社様と一緒に、地場野菜（福井育ち）の美味しさをおすすめするコーナーを設置。メニューは敦賀市健康推進課発行の「1日350g野菜で健康になろう」推進の「プラス1レシピ」を紹介しました。

※1　クッキングサポートコーナー
平和堂全店で 28 店舗を展開。
平和堂の店頭でおすすめの食材を使ったメニューを実演・ご試食いただきながら提案。

▲敦賀合同青果株式会社様と協力して開催

メニュー例

- 福井県産水菜で「水菜と厚揚げの即席白和え」
- 福井若狭産の幸福ねぎで「海鮮ネギちぢみ」

VOICE スタッフの声

地場野菜の美味しさをご紹介しています。

今後も新鮮な地場野菜を使ったメニューをご紹介し、「プラス1レシピ」で野菜の美味しさ、野菜を摂ることの大切さをお伝えできればと思います。クッキングサポートでのメニュー提案が少しでも地域の皆様の健康増進のお役にたてるよう、これからも積極的におすすめしていきます。

アル・プラザ敦賀 クッキングサポート　藤田 恵美子

地場農産物のインショップ化

地場農産物コーナー設置に際し、できるだけその店舗の近くで採れた農産物が販売できるようにインショップ※2化の推進に取り組んでいます。2019年は特に環境にこだわった「環境こだわり農産物いちぢく」や「朝摘みいちご」、「彦根梨」、「南浜ベリーA」などの地場果実がお客様から好評で、地場果実の売上が3億6,600万円（昨年比114.3%）まで伸びました。

※2　インショップ
ショッピングセンターの食品売場の一角に、産直売場を店内併設した販売スタイルのこと。

◀▲地場農産物売場

地場農産物売上金額

40億5,328万円
（前年比 101%）

（内）インショップ売上金額

6億7,000万円
（前年比 110%）

VOICE バイヤーの声

生産者とお客様をつなぎます。

インショップ化することで野菜や果物だけでなく、生産者や地元で作られた農産加工品も幅広く扱うことができ、お客様にも大変喜んでいただいております。

生鮮食品事業部　青果課　箕浦 啓太

近江の魅力発見

滋賀の魅力を多くの方に発信しました。

「Oh!みごとしが」で魅力発信

平和堂では「Oh!みごとしが」のリーフレットを発行し、それに合わせたキャンペーンを実施して、滋賀の魅力の再発見、地産地消に繋げる取組みを行っています。

2019年度はびわ湖でキャンプを楽しむ情報を発信。カリスマキャンパーの松尾真理子さんによる美味しいソトごはんからキャンプファッション、テーブルコーデまで、より楽しんでいただける「しがキャンスタイル」を発信し、知って得する情報と商品を紹介しました。さらに滋賀県内で楽しんだキャンプやバーベキューの写真を投稿していただく「びわ湖deしがキャンフォトキャンペーン」も実施しました。

▲「Oh!みごとしが」リーフレット

平和堂ストアブランド「E-WA!」の拡大

「E -WA!」商品の こだわりをお届けしています。

平和堂ストアブランド「E-WA ！」は、誰もが「おいしい」と感じることを基準に素材・製法・提供単位・健康そして可能な限りお求めやすい価格で、お客様に「こんな商品欲しかった！」と思っていただける商品をコンセプトに開発しています。お客様のご要望を受けて新商品が生まれることもあり、年々アイテム数や販売額も増え、ストアブランドとして着実に成長しています。

「E-WA！」商品アイテム数

76種

2019年新商品

①E-WA!味しみるこんにゃく250g
②E-WA!野菜・かつおだしパック
③E-WA!伊勢志摩産生のり佃煮120g
④E-WA!肉まん3個入
⑤E-WA!リッチブレッド1.5斤

▲2019年度新発売商品

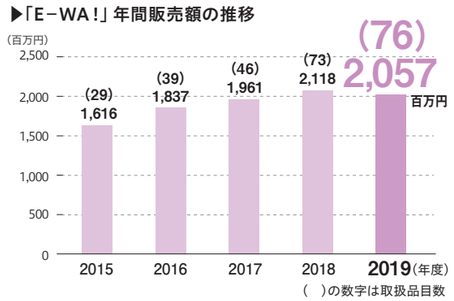
VOICE バイヤーの声

食卓を豊かにする商品づくりを。

「どうしたらお客様に満足していただけるのか？」メーカー様と何度も試作を繰り返し、毎月の開発会議に挑みます。長い商品は1年以上かかります。苦労して生み出された「E-WA!」はバイヤー渾身のいちおし商品です。

一般食品事業部 日配品課　廣瀬 昭太

▶「E－WA！」年間販売額の推移



既存商品のブラッシュアップと、認知度を広げる活動

クッキングサポートと連携して売場でのPRを行っています。「E-WA ！」のおいしさをより引き出すメニューを提案し、お買い物に来られたお客様に商品の良さを味わっていただいています。

また、モバイルユーチューブによる商品の訴求や、お得な「週トククーポン」の配布によって、初めての方にも気軽にお試しいただける取組みを進めています。

▲クッキングサポートによる「E-WA！」の紹介

お客様の声　**E-WA! 肉まん**

具材が細かく刻まれて甘味がありおいしい！豚肉の食感がグッド！

お客様の声　**味しみるこんにゃく**

味しみが良くて、牛すじ煮込みで食べるとおいしい！

▲クッキングサポートによるメニュー提案

地産地消商品の販売

平和堂では個店ごとに地域に根差した品揃え、地域経済の持続的な活性化を目的として地域名産品の販売に力を入れています。平和堂ストアブランド「E－WA ！」においても積極的に地産原料を取り入れており、地域に存在している多様な資源を商品化することで、県内のみならず県外の方へも滋賀県の美味しさを味わって欲しいとの思いで商品化を進めています。

生産者が消費者のダイレクトな反応を知る機会が増えることで、生産者の意欲を高めるきっかけとなり、さらに地域の農産業を活性化させることを目指しています。

▲彦根梨生産者の皆さん

「E-WA！」地産地消商品アイテム数

9種

▲地産地消商品

「E-WA！」地産地消商品（一例）

①E－WA！モリヤマメロンのチューハイ　350ml
②E－WA！彦根梨のチューハイ　350ml
③E－WA！二度漬仕込み白菜漬　180g
④E－WA！国産白菜手仕込みキムチ
⑤E－WA！豆力　手盛り　寄せとうふ
⑥E－WA！近江の大豆　豆力　40g×3

VOICE バイヤーの声

地産地消で地域を盛り上げたい！

生鮮品が先行している「顔の見える商品づくり」「地元食材」を加工品でも実践し、地域のお客様・生産者様を笑顔にしたいという想いで商品づくりを行っています。

農家の方が丹精込めて作った農産物を使用し、商品を作ることで、生産量・消費量を増やし、地域農家の方が安定的にいい物を生産できる土壌づくりを進めていきます。

地域が持続的な成長をするために、生産者・製造者、時には行政と協力しながら、お客様によりよい商品をお届けするべく、今後も取り組んでいきます。

一般食品事業部 加工食品課　三田村 泰成

お客様の声

彦根梨はそのままでもとてもジューシーで美味しいです。それがチューハイになっているのだから、もちろん美味しいに決まっています！

お客様の声

滋賀県の友達に「地元に面白いお酒が売っていたから」とお土産でいただきました。やさしい甘さでお酒の弱い私でも楽しくいただくことができました。

お客様の声

楽しかった滋賀県での思い出を持ち帰りたいと思い購入しました。パッケージデザインもかわいく、とても気に入りました。

PICK UP　地産地消商品の取組み

「彦根梨」の缶チューハイ発売！

2018年8月に、平和堂は平和堂ストアブランド「E-WA ！」の新商品として「彦根梨」を使った缶チューハイの販売を平和堂全店で始めました。

彦根梨は、彦根市石寺町の梨園で19戸の生産者が約10ヘクタールの面積で栽培しており、「幸水」「豊水」「筑水」などが生産されています。完熟させてから収穫するため甘みが強く、優れた食味が特長の人気商品です。梨果汁は彦根梨のみを使用し、梨本来の甘味、香りを閉じ込めた逸品です。

彦根梨「幸水」収穫前▶

▲E-WA！彦根梨チューハイ

▲売場の様子

PICK UP **環境配慮型製品の取組み**

平和堂の店頭で回収された牛乳パックがどのようにトイレットペーパーに生まれ変わるのかレポート。
泉製紙株式会社様の環境に負荷をかけない古紙再生システムや排水処理システムからは「子どもの頃の美しい川を取り戻したい！」そんな故郷を思う社長のあたたかい気持ちが伝わってきます。
さらにこの商品には使う人への想いが込められた工夫がいっぱいです。

平和堂

回収業者を通じて
愛媛パルプ協同組合に
持ち込まれる牛乳パック

212トン

購入されると、1パックにつき
12円が寄付されます。
（特定非営利活動法人碧いびわ湖様へ）

E-WA! Heiwado

平和堂ストアブランド「E-WA!」に
エコシリーズが新登場！

愛媛パルプ協同組合 県内製紙8事業者の共同出資によって1969年に設立された古紙100%再生パルプ製造工場です。

溶　解

「パルパー」と呼ばれる巨大ミキサーに牛乳パックを投入。60度以上の温水の中で小片に砕き、紙とポリエチレンを分離させます。

分離されたポリエチレン▶
投入した牛乳パックの内、約2割はポリエチレン。

異物除去・洗浄

泉製紙の先代社長が考案し設計した古紙製造設備。化学薬品や漂白剤は一切使わず、何段階も精選し、繊維状に解きほぐします。

高濃度クリーナー

粗選・精選

洗浄

◀クリーナー工程から出た異物

1日48トンの牛乳パックを処理して、35トンのパルプができあがります

牛乳パックのパルプ原料▶
30分から1時間の工程をかけてできあがる。

泉製紙

調　合

「ポーチャー」と呼ばれるタンクで牛乳パックのパルプと上質系古紙のパルプを1対9の割合で調合。

抄　紙（しょうし）

独自で開発された抄紙機で均一な紙をすき上げ、トイレットペーパーのジャンボロールが完成。

製品加工

ジャンボロールを小巻のログで実際に使うサイズ（130m）に巻き替えます。270度に熱した棒に水を吹きかけて紙を巻き付けることで芯部を固めていきます。

紙を逆に巻き替えることで、紙の特性によりカール機能が生まれます。

切断する時に刃の圧力でトイレットペーパーの形が崩れないように、棒で固定しながらカットします。

カットされたトイレットペーパーを6個ずつまとめて包装し完成！

VOICE ご担当者様の声

この商品を平和堂の家族の一員として育ててもらいたいですね。

「リサイクル」が当たり前となった時代だからこそ、改めて子どもたちには自分が飲んだ牛乳パックが形を変えてまた自分の元に還ってくることを体験し学んでほしいと願っています。平和堂様には、当社がこの商品を通してこうしたメッセージを届けるチャンスをいただけたことに感謝しております。今後も引き続き安定した品質と供給、そして進化する技術で永続的に貢献していきたいと思います。

泉製紙株式会社 代表取締役社長　宇高 治 様

何が環境にいいの？

- ○古紙を100%使用
- ○製造工程の中で化学薬品は使わない
- ○芯なしだからごみが出ない
- ○1ロール130m巻で体積を減らし、配送時のCO_2やパッケージの使用量を削減

パートナー企業

泉製紙株式会社様（愛媛県四国中央市）

用水や薬品を極力使わず環境にやさしい古紙再生商品を生産。また、トイレットペーパーにいち早くJIS規格を取り入れるなど安心安全の品質への取組みを行っています。

URL https://izumi.kami.ne.jp/

環境貢献型商品

食品ロス削減の取組みとして 食品リサイクルを推進しています。

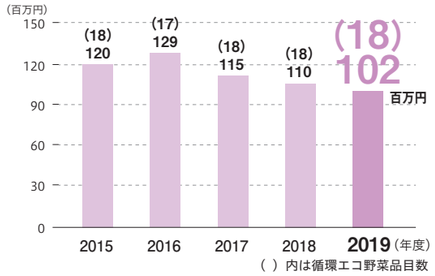
食品リサイクル（循環エコ野菜）

平和堂では、商品加工過程で発生した野菜くずや販売期限切れの廃棄食品などを堆肥としてリサイクルし、その堆肥を使って野菜を栽培、再び店頭で販売するという食品リサイクルループを利用した「循環エコ野菜」の取組みを推進しています。

2019年度の循環エコ野菜の販売額は、春から夏にかけグリーンリーフ、なす、大根が不作で、夏から秋に出回るかぼちゃや秋冬作の白菜、ブロッコリーは順調で後半追い上げましたが昨年をクリアすることができませんでした。

▲循環エコ野菜売場

▶「循環エコ野菜」年間販売額の推移



野菜品目

- ブロッコリー
- なす
- ニンジン
- かぶら
- かぼちゃ
- えだまめ
- 玉ねぎ
- ばれいしょ
- 白菜
- ミニトマト
- さといも
- 小松菜
- 金時草
- 春菊
- 大根
- グリーンリーフ
- キャベツ
- みずな

Recycle

「循環エコ野菜」の取組み　環境にやさしく、命をつなぐ 環

①生ゴミ収集・運搬

事業者や各家庭から出る生ゴミを1日約10t回収（内、1tが平和堂回収分）。

②1次発酵処理施設

生ゴミや草木などを投入し1次発酵（20日間）。通気量を調整しながら撹拌機で1日1回堆肥を攪拌し、自然発酵させます。

70℃ 発酵温度は1番高い所で70度

③2次発酵処理施設・ストックヤード

1次発酵させたものをコンテナに入れフォークリフトで運び、このストックヤードで寝かせ自然に熟成と乾燥を行うことにより高熟成堆肥に仕上げます（40日間）。

④振動振るい作業

発酵が終わった堆肥を振るいにかけて、ゴミなどを取り除きます。

⑤袋詰め作業

1日1,000～1,200個袋詰め（1袋3kg）しています。

⑥農園

指定農家で、堆肥を利用した野菜の栽培をしています。

⑦平和堂店舗で販売

指定農家で栽培されたものを平和堂で販売。

リサイクルのパートナー企業

株式会社 水口テクノス様（滋賀県甲賀市）

URL http://www.m-technos.com/

お取引先との信用を重んじます

平和堂は、社会からの「信用」を大切な財産と考えています。
築いてきた信用を失わないために、様々な取組みを進めています。

12 つくる責任 つかう責任
16 平和と公正をすべての人に

安全・安心な商品の提供

「見やすく、わかりやすい」をキーワードに、品質管理レベルを向上するためのツールを改定。

「清掃・薬剤使用マニュアル」をより見やすく、わかりやすくするため、日常的に実施すべき衛生管理項目を清掃項目に追加しポスターに改訂しました。絵や写真を用いることで従業員の理解度が高まりました。その他、清掃マニュアルを冊子化し清掃時間の目安を記載、現場で正しい清掃が実施できるよう教育ツールとしました。マニュアルについては以前に作成した冊子と合わせて3冊となり、以下のように運用しています。

①品質管理の基礎～教育用～

・新規採用者に衛生管理の基本を教育。

②インストア衛生管理マニュアル

・すべての衛生管理に関するマニュアル。売場主任は熟読し部下の指導に使用。

③インストア作業場清掃マニュアル

・作業場内での清掃方法を箇所別に記載。使用する洗剤、清掃用具、目安の時間を記載し、作業の標準化を図る。

▲各種マニュアル

▲衛生管理・薬剤使用マニュアル

ショッピングセンター全体の衛生管理向上のために

ショッピングセンター全体の「安全」「安心」を追求するために、店舗総合衛生調査を年2回実施し、インストア作業場から売場までの衛生管理状況をチェックしています。また専門店や同友店※1も衛生管理レベルをアップさせるために同様のチェックを行い、さらにエリア別で同友店に集合研修を実施しました。2019年度同友店の上期合格率実績59.7%は、下期には66.1%となり、全体の意識向上とレベルアップにつながりました。

※1 同友店
平和堂と直接契約を結んだテナント。

▲衛生調査風景

HACCPを取り入れた衛生管理の構築準備

2020年6月のHACCP※2施行を前に、サポート企業を選定して平和堂HACCP構築に向けた取組みをスタートしました。HACCPキックオフ会議を実施して関係部署に説明をするとともに、危害要因分析や不足マニュアルの作成、CCP（重要管理点）の決定を経て、2020年度上期には数店舗で実験導入し、実情に合うよう修正しながら全店導入を目指します。

※2 HACCP（ハサップ）
食品の製造・出荷の工程で、どの段階で微生物や異物混入が起きやすいかという危害をあらかじめ予測・分析し、被害を未然に防ぐ方法のこと。

食品表示法改正への対応

食品表示法改正に伴う加工食品の一括表示の変更を実施しました。デリカ商品については今までも栄養成分値を表示していましたが、新たに精肉や鮮魚においても、仕入れてそのまま小分けして販売する商品については栄養成分値を表示する必要があるため表示対応しました。

VOICE 社員の声

衛生管理向上を目指して全店をまわり指導しました。

全店直接訪問することで、店舗で困っていること、悩んでいることを聴き取ることができました。今後は店舗にとってよりわかりやすく理解・実践できるような指導をしていきたいと思います。

CS推進部 品質管理室 林 栄司

店舗では人員不足のなか、一生懸命に清掃や管理をされていました。その中でも特に清掃しにくい場所や、管理する際の大変な思いを聴き取ることができました。今後、店舗で少しでも簡単に清掃の実施や維持・管理ができるような仕組みを構築していきたいと考えています。

CS推進部 品質管理室 粕渕 真樹

PICK UP **衛生管理の取組み** ～フレンドマート高槻氷室店～

安全安心な商品提供はキレイな作業場から

2019年度下期店舗総合衛生調査において、総合評価「A」99.0%の合格率で全店3位と好結果を収めた当店。上期の全店27位から大きく飛躍したのには、従業員一人ひとりの衛生管理に対する意識向上がカギでした。「お客様に気持ちよく買い物していただくために必要なことは？」を常に考えながら作業している当店の様子をご紹介します。

青果部門

作業場がきれいだと明るく感じて気持ち良く仕事ができます。調理器具の洗浄・殺菌も徹底的に行い、お客様への安全安心な商品提供に努めています。
（青果部門 大石さん）

鮮魚部門

2週間に1回の清掃タイムを2人体制のシフトを組んで行っています。時間をかけて作業場の壁から床まで、高圧洗浄機を使って清掃しています。新人教育では、褒めることで仕事にやりがいを持ってもらい意識向上を図っています。
（鮮魚部門 水船主任）

作業場だけじゃない！表示・計量管理、売場衛生管理調査は“オールS”判定※3!!

表示管理

入荷リストに沿って表示をチェック！

売場の衛生管理

温度・鮮度・清掃、全て売場ごとに徹底管理！

計量管理自主検査

適正計量管理事務所の指定を受け、適正な計量を実施しています

※3 判定基準
作業場・売場の衛生管理：S（100 点）、A（90 点～ 99 点）、B（80 点～ 89 点）、C（80 点未満）とし、A 以上が合格。
表示・計量の管理：S（100 点）、B（100 点未満）とし、S のみ合格。

VOICE 店長の声

衛生管理評価「オールS」を目指します！

当店に赴任してまだ1か月と日が浅いのですが、初めて当店の作業場を見た時は他店と比べてもレベルが一段二段も上だと思うくらいきれいで、社員の意識も高いと感じました。自分たちのロッカールームも含めて店全体で職場をキレイにすることで、自分たちの働いている職場に誇りを持とうという意識が根付いているのだと思います。

フレンドマート高槻氷室店 店長
二村 俊彦

公正・公平な取引の推進

多様なステークホルダーとの関係を築き、企業活動を実施しています。

お取引先様との共存共栄を目的として1974年に発足した「平和堂ハトの会」。毎年6月に定時総会と懇親会を実施しており、2019年度は317社、307名の会員の皆様にご参加いただきました。また、お取引先様との関係向上を図るため毎年アンケートを実施しており、いただいたアンケート結果は各部門において課題を共有し改善に努めています。従来、管理者・バイヤーに対して結果を公開するのみでしたが、2019年度は結果をもとに満足度の低い項目の改善のため研修を行い、公正・公平な取引推進への取組みを進めています。

▲ハトの会定時総会

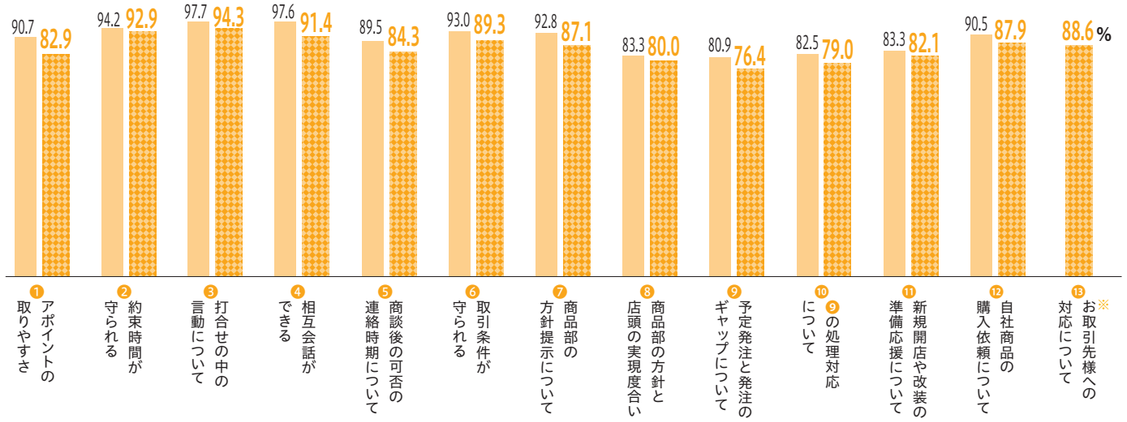
▶ お取引先様満足度アンケートを経営に反映させる仕組み

お取引先様満足度
（平均値）

85.9%

【ハトの会定時総会】において**アンケート配付** → **アンケート結果のとりまとめ** → 内部統制委員会において**報告** → 管理者・バイヤーに**結果の公開と研修を実施**

▶2019年度 お取引先様満足度アンケート調査結果（%）



※「お取引先様への対応について」の設問は、2019 年度より追加した項目です。

法令順守のための社員教育

法令順守のために教育を行っています。

平和堂は「独占禁止法」「下請法」などの関係法令を順守し、公正公平な取引を実施しています。特に管理職・バイヤーには「独占禁止法順守マニュアル」や、日本チェーンストア協会作成の「納入業者との公正な取引を推進するためのQ＆A」を配付し、不公正な取引方法の禁止、応援依頼させていただく場合のお取引先様の同意や対価の支払いなど取引ルールの順守に努めています。

2019年10月の消費税増税において消費税転嫁対策特別措置法の留意事項についての研修を実施しました。

▲研修風景

適切な情報開示

売上・決算などの情報開示に努めています。

平和堂はホームページにおいて月次売上高、決算短信・決算公告・報告書などを適時公開しており、株主・投資家の皆様に向けて情報開示を行っています。また当社ホームページと当社スマートフォンアプリに「株主様募集ページ」を開設し、当社の株主になられた時のメリットや株式購入のための諸手続きなどを見やすくかつ分かりやすく紹介しています。加えて年２回、経営トップが業績や経営目標を説明する決算説明会を東京と大阪にて開催しています。

▲ホームページ画面

▶月次売上高ページ
URL https://www.heiwado.jp/ir/sales.html

▶株主様募集ページ
URL https://mobile.heiwado.jp/shareholder/

決算説明会▶

株主優待制度のご案内

株主の皆様のご支援に感謝

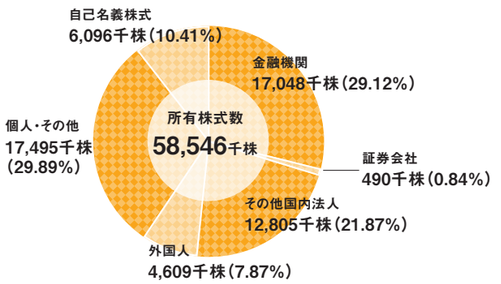
平和堂は、株主の皆様のご支援に感謝し、株主優待制度を導入しています。出店エリア外にお住まいの株主様にもご活用いただけるよう、全国で利用できるギフトカードと株主優待券との選択制を採用しています。また、新店舗の情報や平和堂のトピックスなどをまとめた報告書を年に2回株主様に送付しています。株主優待制度に関しては、ホームページ等にて詳しく案内しています。

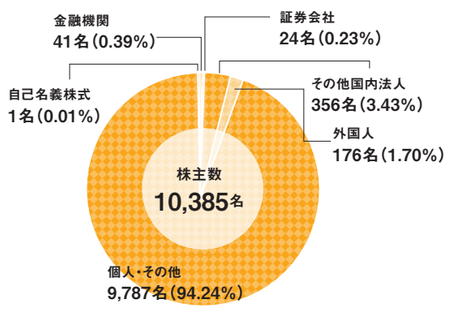
▶ 株主優待制度について
URL https://www.heiwado.jp/news/news02_04_02.htm

▶ 報告書
URL https://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html

▲第63期中間報告書

▶株式の分布状況（2020年2月20日現在）





※数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

みんなの幸せを築きます

平和堂は、社会に認められる会社になるために、「人」を大切にする会社を目指しています。

社内コミュニケーションの活性化

社内向け「平和堂コミュニケーションサイト」を開設！

様々な立場の社員が自由に情報を発信し、店舗や勤務時間、年代などを超えた人と人との繋がりを活性化し、オープンな職場環境を実現することを目的として、2019年4月1日より社内 SNS を開設しました。

開設にあたっては、サイトを利用する際の注意事項など運用ガイドラインの周知徹底を行い、健全なコミュニケーションの活性化を促しました。

▼自由にグループが作成できます。(一例)

コレミテ！新百景　京阪エリアのかわら版　平和堂のなんでもグループ

アカウント取得数（2020年2月20日現在）

3,011名

新人事制度

人事制度を一新しました。大切にしたいのは「一体感」

全従業員が、各々の強みや個性を発揮し成長し続けられるような平和堂にしたい!!という思いから、2020年度スタートに向けて制度構築を進めてきました。

複雑に細かく分かれていた社員区分を2つのコースにすることで、一体感を持った職場環境の実現を目指します。

▶2つのコース

CDコース
Career Development
様々な経験を通じて能力や技術を開発しキャリアアップを目指す

SPコース
Social Partner
一人ひとりの今のライフスタイルに合った働き方で、ライフとワーク両方の充実を目指す

新しい人事制度の考え方

多様な人材がライフステージに応じて柔軟に能力を向上・発揮して安心して働き続けることができる基盤づくり

人材育成

知識・経験を発揮し、後進の育成に参画する風土の醸成

2019年度は「変化・変革の年」と位置づけ、変化に対応する“より強い個”の育成をテーマに教育を行いました。その中でも大きく2つの内容に取り組みました。

①自律的に学びを深め、チームメンバーの能力を向上できるリーダーの育成

2014年から開校した「経営者育成塾」を引き継ぎ、100年企業実現を担うリーダーの育成と、人間力を高めることを目的とした「リーダー塾」を新設しました。

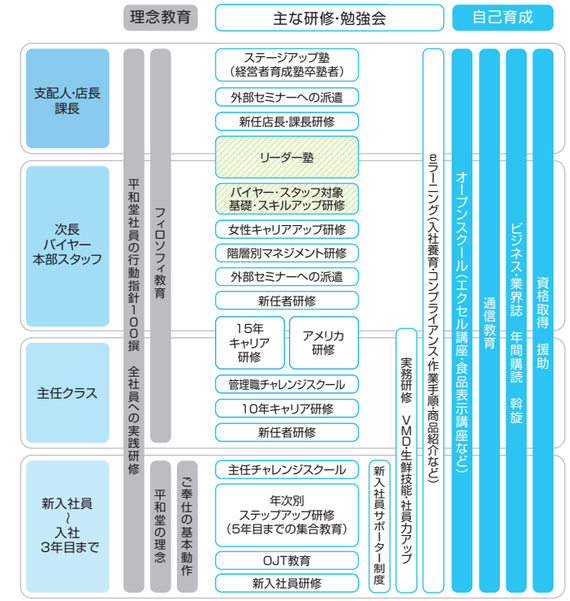
経営理念と部下育成の重要性をより深く理解し、自らの学びをスタートする場としています。

②画一的、網羅的な育成体系を基礎として、専門性の高い業務従事者に対して教育プログラムを導入

バイヤー・本部スタッフを中心に、担当業務の理解を深め、スキルを高められる教育機会を提供し、スペシャリストを育成しています。

業務遂行に必要な知識やスキルを明確にし、個々人のレベルの把握と新たな目標設定を促しています。

▶教育体系図（2019年度）



▨ 2019年度新設研修

社内eラーニングを活用した教育の充実

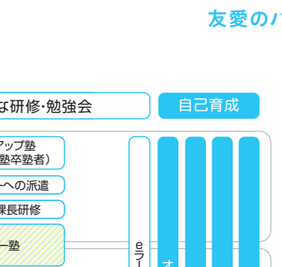
IT やインターネットを活用した学習ツールである「eラーニング」を全社員に向け導入しています。パソコンやタブレット、スマートフォンを用いて、動画やテキストで分かりやすく学ぶことができます。また、メニューも「労務管理」から「生鮮食品のマニュアル」までと幅広く、充実した内容となっています。

▲eラーニング画面

平和堂創業者生誕100年記念DVD「夏原平次郎 あゆみ」

お客様の価値観やライフスタイルが刻々と変化していく中で、常に変化に対応しながら「変えなくてはならないもの」がある一方で、どのような状況にあっても「変えてはならないもの」もあります。それが、創業者の「思い」や「考え方」すなわち平和堂の経営理念です。平和堂が目指す「100年企業」を実現するためには、このような経営理念をしっかりと理解し継承していくことが大切であると考えています。

そこで、平和堂創業者である故 夏原平次郎の生誕100年を記念して、創業者が話している場面を中心とした記念動画を制作し、社員教育はもちろん、社外にご紹介するツールとしても活用しています。



▲DVD「夏原 平次郎 あゆみ」

社内アドバイザー /アンバサダー研修

社内アドバイザー研修では、接客に必要な商品知識はもちろん、料理提案や加工技術などを身に付け、お客様お一人おひとりにあった商品提案や、楽しいお買い物のサポートをしています。また、知識を深め、技術を磨き上げることで、従業員が自信と誇りを持って、いきいきと働き続けられるよう成長を支援しています。

現在では、34種類の社内アドバイザー研修があります。

VOICE 取得者の声

アドバイザー取得が自信と責任感に

ワンランク上の加工技術や料理方法を学び、自身の知識やスキルを向上させたいと思い、挑戦しました。アドバイザー講座で学んだことを日々お客様に丁寧にお伝えしています。今ではマグロ解体ショーを実施できるようになりました。

フレンドマート竜王店 鮮魚
フィッシュアドバイザー　太田 ひろみ

お客様の食卓のサポートを

クッキングサポートではお客様から様々な問い合わせがあります。少しでもお応えできるようになりたいと思い受講しました。アドバイザー研修は試験があり大変ですが、学ぶことが多く勉強になりました。お客様とのトークにとても役立っています。これからも前向きにチャレンジしていきます。

アル・プラザ鶴見 クッキングサポート
スパイスアンバサダー　臼井 ゆか

多様な働き方の推進

多様な人材が活躍する職場づくり

女性活躍推進

女性キャリアアップセミナー

女性活躍推進の取組みとして「女性キャリアアップ研修」を開催しています。この研修は、職位に応じて初級編・中級編・上級編とステップアップできる教育体系を構築しており、2019年度は主任クラスの20名を対象に「中級編」を開催しました。

「管理職を目指すだけが女性活躍ではない」「現在の職位で活躍したい」という多様な働き方も尊重しながら、“性別に関係なく活躍できる会社”を目指し、今後も取り組んでいきます。

▲女性キャリアアップ研修

VOICE 参加者の声

私らしく働くために

このセミナーでは、「話して、聴く」というテーマのもと、楽しさと真剣さを織り交ぜながら、みんなで積極的に参加させていただきました。改めて自身を客観的に見つめなおすことで、自分は何を求められていて、何をしたいのかについてしっかり考えることができました。

このセミナーで学んだことを、これからの考え方の軸として、今後も日々精進して参ります。

アル・プラザ富山 サービスセンター　池上 由紀子

ワークライフバランス

はとパパはとママセミナー

2019年度は滋賀（12月17日）、京都（12月18日）、石川（12月19日）の3会場でママ55名、お子様29名の合計84名に参加していただきました。

VOICE 参加者の声

感謝の気持ちを大切に

このセミナーに参加して、育児中の働き方の共有や子育て中のママ社員との交流、人事制度の説明などを聞き、いい刺激となりました。

サポートしてくれる家族や売場のメンバーさんに感謝をするとともに、仕事と育児の両立に努めていきたいです。

アル・プラザ富山 ドラッグ・SM 住関　北川 智美

ライフプランセミナー

2020年1月30日（滋賀）、2月13日（京都）で50代の方を対象に、「健康」「定年退職」「老後の暮らし」「年金」をテーマに、ライフプランを考えるセミナーを開催しました。

2日間で82名に参加していただき、関心の高さを知ることができました。

VOICE 参加者の声

いきいき過ごすために

人生100年時代。私も半分が経過したあたりから残りの人生について意識をするようになりました。

豊かな老後を過ごすために、「健康」、「定年退職」、その後の仕事、そして「年金」などわからないことがたくさんありました。

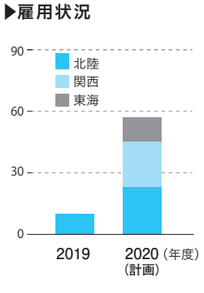
このセミナーでは、これからを楽しく生きていくために、疑問を気付きに変えることができました。

アル・プラザ栗東 デリカ　桃井 稔

多様な人材の活躍

平和堂の新たなメンバーとして、ベトナムから技能実習生10名を迎え入れました。デリカ売場で最長3年間、技能を学び、日本語を習得されます。2019年度の第1期生は北陸店舗に配属。明るく、ひたむきに業務に励んでおり、技能実習生の活躍で、店舗にもさらに活気が生まれました。今後も2府7県に受け入れを拡大していきます。帰国後、日本で学んだ技能や知識をどのように発揮していただけるか、とても楽しみです。

▶雇用状況



▲第1期生入社時の様子

いきいき働ける職場づくり

社員が安全に働ける職場づくり

安全・労働衛生

労働災害の防止

中央労働安全衛生委員会が主体となり、営業部門と連携し、全店的な労災対策を実施しています。2018年度は、鮮魚部門にカットガード（耐切創）手袋の導入、2019年度には「脚立」「踏み台」ルールの制定、熱中症予防対策、転倒対策、デリカ部門やけど対策等を実施しました。

その結果、業務上災害発生件数が16.5%減（59件減少）となり、年間の業務上災害による休業日数は昨年比40%減、それに伴う労働損失（MH）は昨年比 37%減となりました。

【2019 年度の取組事例】

①墜落・転落対策

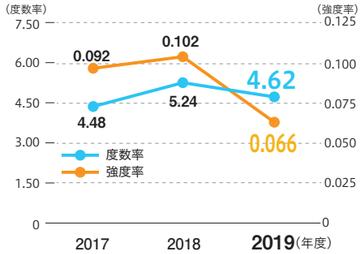
「脚立」「踏み台」ルールを制定し、使用頻度が最も高く、転落の危険性が高い80㎝未満の脚立を廃止し、より安全に作業できる「踏み台」に変更しました。

②転倒対策

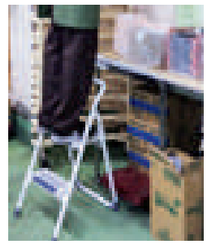
1）開店前の転倒事故が最も多く発生していた為、社長による「走らない」注意喚起アナウンスを放送したところ、開店前の転倒事故は大きく減少しました。

2）転倒予防として、年齢や性別に関係なく誰でもその場でできる「つま先立ち体操」を産業医指導のもと作成し、e ラーニングで紹介しました。

▶全部門労災　度数率、強度率

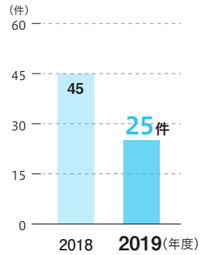


※度数率：100万延べ実労働時間当りの労災による死傷者数で、災害の発生頻度を表す。
※強度率：1000延べ実労働時間当りの労働損失日数で、災害の重さを表す。



▲踏み台使用例

▶鮮魚部門の
切創労災件数の推移



・ステップが幅広で安定感がある
・ゴム使用のステップで滑りにくい
・上枠で足を支えられる

卒煙100人達成記念パーティ

社員一人ひとりの健康増進を図り、会社全体の健康経営に繋げるため、「卒煙」に取り組みました。この取組みの結果、卒煙の達成者が100人を超え、そしてこの卒煙達成者が中心となり、「卒煙の輪」を広げる“きっかけ”とするため、「卒煙100人達成記念パーティ」を開催しました。

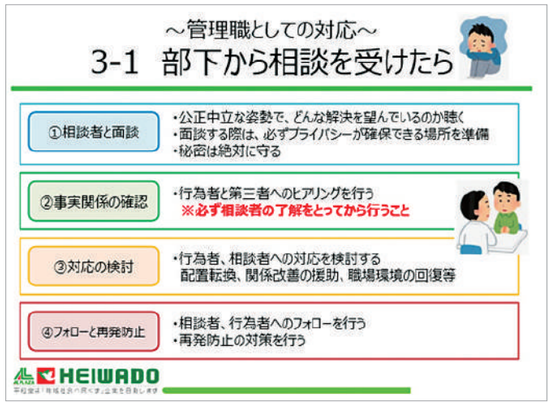
▲卒煙100人達成記念パーティ

人権啓発活動

ハラスメントの防止

平和堂では、人権が尊重される職場風土の確立に取り組んでいます。

働きやすい職場づくりを推進するために、「ハラスメント」を理解し基本的な対応を学ぶ研修を実施し防止に努めています。新任として上位職に着任された方には、相談を受けた場合の対応などを研修しています。教育人事部内に相談窓口を設置しており、問題が起きた場合に解決へ向け丁寧に対応できる体制を整備しています。お客様に優しく、従業員がいきいき働ける企業を目指して取り組んでいます。



▲eラーニング画面「パワーハラスメントの防止」

ピカピカ実現活動

売場・サービスの質向上を自発的に考え、知恵を出し合います。

お客様に感動を与えられるくらい際立った売場・商品・サービスの実現を目指して活動する「ピカピカ実現活動」。2019年度には、その活動内容の見直しを行い全員参加での取組みを実施させるために、商品店長、次長は2か月に1回販売ミーティングで進捗確認を行うようにしました。

また、パートナー社員が積極的に参加するために 、テーマの決定には全員の意見を吸い上げる仕組みにし、結果だけでなくプロセスも重視して良い取組み内容のものにもスポットを当てるようにしました。優秀な活動を共有・水平展開するために、約1,000名が参加する全社発表大会を年2回実施しています。

▲アル・プラザ鹿島発表風景

2019年度上期発表大会
参加グループ数（2019年10月9日実施）

1,283グループ

2019年度下期発表大会
参加グループ数（2020年10月14日実施予定）

1,296グループ

▼順位は当日の最優秀発表賞

アル・プラザ鹿島表彰

フレンドマート梅津店表彰

アル・プラザ守山表彰

▶ 2019年度上期発表大会最優秀賞受賞6グループ

店　名	売場名	グループ名	リーダー名	テーマ
アル・プラザ鹿島	グロサリー	グーグロ　クリック	早川 健吾	アル・プラザ初　ニューグロサリー化のチャレンジ
フレンドマート梅津店	鮮魚	天然揃いの魚屋さん	前田 栄治	改装を向かえ、年間 25 億への挑戦！ 大きな目標へ鮮魚の役割を果たす！！
アル・プラザ守山	エルダー	モリモリ守山盛り上げ隊	平田 富士子	おもてなし地域一番店となり、客数 UP に貢献する！
アル・プラザ醍醐	家庭用品・寝具 インテリア	くらしのフロア	藤田 奈緒子	チーム一丸でご奉仕高 103%への挑戦
フレンドマート長浜平方店	デリカ	NHK46 総菜屋	寺脇 清彦	私は変わる！周りを変える！『夕方のご奉仕アップ』
ビバシティ平和堂	レディス	ビバのお祭りムスメたち	二宮 彩	リアル店舗の強みを活かそう！ ～目指せ模範売場～

PICK UP　ピカピカ実現活動

魅力あるショッピングセンターづくりを目指して

2019年度上期大会では、ファッションショーを実施しました。

アル・プラザ富山では平和堂初の試みである衣料品・住居関連品売場をショップ形式に改装しました。その店内の様子を DVD にまとめて紹介するとともに、販売している商品をファッションショーで紹介しました。

平松社長もモデルになり、とても
盛り上がったショーとなりました。

▲ピカピカ活動展示

VOICE　社員の声

店舗スローガン「日本一のショッピングセンターにする」

今回アル・プラザ富山は「ショップインアル・プラザ」と総称し、21のショップに生まれ変わりました。ブランド業界の壁を壊し、百貨店・専門店の品揃えを充実させ、衣住複合MD※1を構築しました。お客様からは「明るくなった」「おしゃれになった」というううれしいお言葉をいただいています。

初めての大きな改装のため従業員も戸惑いはありましたが、日々試行錯誤しながら少しでもお客様に支持していただき、喜んでいただけるショップになる為に奮闘しています。

アル・プラザ富山 衣住統括副店長　佐藤 さおり

※1　MD（マーチャンダイジング）
商品化計画。製品や顧客動向、トレンドなど様々な調査分析を行うことで、商品開発から販売計画立案まで一括管理すること。

▶ 2019年度下期発表大会（2020年10月14日実施予定）

店　名	売場名	グループ名	リーダー名	テーマ
アル・プラザ草津	レディス	レディスチーム	村中 奈都子	地域一番のレディス売場へ！　S/A・品揃え改善
今津店	グロサリー	チームグロサリー	清水 諒平	「地域へのお役立ち」～地元商品の売り込み再強化
フレンドマート上笠店	鮮魚	上笠のフィッシュ	桑原 竜	「チーム上笠！今日のおかずは魚で決まり！！毎日のメニューを心を込めてお手伝い」
アル・プラザ醍醐	レディス・専門店	ダイゴのコーディネイター	久保 詩歩	接客に没頭し、レディスの顧客様獲得！！
フレンドマート南郷店・スーパーフレンド大石店	デリカ	南郷惣菜亭	今村 聖奈	お客様に目につく売場を！
フレンドマート・G宇治市役所前店	サービス	げんきっこ	松本 奈穂美	お・も・て・な・しGのファンを作ろう

地域社会のためにつくします

平和堂は、地域社会の一員として、よりよい社会をつくるための取組みに注力し、「環境」と共存する会社を目指しています。

食育推進活動

健全な食生活を育んでいます。

クッキングサポート　キッズイベント

店内に設置している「クッキングサポートコーナー」では、お客様に食べることの楽しさや大切さをご提案しています。また、カウンターの前ですぐに参加できる小規模のものから、フードコートや空きスペースを利用しての予約制イベント、「スタンプラリー」のように店全体を使った企画まで、多くの子どもたちに参加いただき、楽しく学ぶことができると好評です。

クッキングサポート設置店舗数 **28店舗**

【イベントの種類】

①季節のモチベーションに合わせたイベント
（イースター、梅仕事、ハロウィン、お正月など）

②ゴールデンウィークや夏休みに学びを入れた体験
（キッズお仕事体験、実験教室など）

③謂れの日や記念日などにちなんだイベント
（箸の日、菜の日、節分など）

開始前から仮装した子どもたちの長蛇の列ができ、200名以上が参加してくださいました。

▲ハロウィン
スタンプラリーでお菓子をゲット

▲梅仕事
梅を漬ける体験

▲ゴールデンウィーク
野菜の切り口スタンプでお絵かき

▲夏休み
身近にある「砂糖」で溶け方の実験

▲菜の日
31日に野菜の計量クイズに挑戦

「31日」には野菜のメニュー提案や野菜クイズなど、クッキングサポート全店で取組みました。

お箸を上手に使って、はとっぴーにお寿司を食べさせてね。

▲箸の日（8月4日）
お箸を上手に使おう

▲節分
巻き寿司を作ろう

5 A DAY（ファイブ・ア・デイ）食育体験ツアー※1

座学だけでなく売場で商品を直接手に取って楽しく学ぶことのできる本ツアーは、ご参加いただいた団体様からとても好評です。

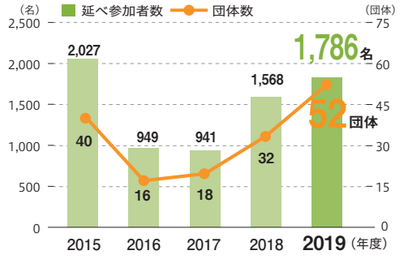
2019年度は、このツアー運営を担当する食育インストラクターを前年からさらに5名増やし、食育活動での地域貢献として取り組みました。2019年度は幼保園の参加が増え、参加団体数が大幅に上回りました。

※1　5 A DAY（ファイブ・ア・デイ）食育体験ツアー「1日に5皿分（350g）以上の野菜と200gの果物を食べましょう！」をスローガンとして、園児（5歳児）や児童（小学 3 年生）にバランスの良い食事について学んでもらう食育体験プログラム。

ファイブ・ア・デイ協会認定
食育インストラクター数
17名

▲（大垣市）安井幼稚園の皆さんと

▶「5 A DAY 食育体験ツアー」参加者数の推移



2019年度資格取得者

アル・プラザ栗東
村田 香織先生

アル・プラザ堅田
出野 万里子先生

アル・プラザ長浜
草野 玲好先生

CSR推進室
古池 眞人先生

アル・プラザ鶴見
臼井 ゆか先生

VOICE　食育インストラクターの声

5 A DAY の輪を広げたい。

園児さんと楽しくお勉強するこの食育体験ツアーを運営するようになり、これから大きくなる子どもたちに強く元気な身体作りができるよう学んでもらうことの大切さを実感しています。

また、31日は菜の日。クッキングサポートでも食育インストラクターの知識を活用して、野菜の計量クイズなどを実施しています。今後も多くのお客様に食の大切さをお伝えできるように日々取り組み、平和堂から5 A DAY の輪を発信できたらとてもうれしいです。

PICK UP
はなぶさ保育園

食育推進活動［アル・プラザ醍醐 2019年7月8日（月）］

たべるのおはなし教室

京都市にあるはなぶさ保育園さんに初めてツアーにご参加いただきました。うちゅう組・ちきゅう組の年長さん35名がアル・プラザ醍醐で楽しくお勉強しました。

まずはみんなでDVDを視聴します。

▲当日のインストラクターは食品副店長の尾中克匡先生。（現・フレンドマート土山店 店次長）

お勉強した内容から与えられるミッションに沿って、売場でお野菜・果物を探すお買い物ゲーム。決められた予算内でお買い物できたかドキドキ。

食べ物は働き方によって３つの部屋に分かれることをしっかりお勉強（三色食品群）。特に緑のお部屋（野菜・果物）を重点的に、詳しく教えてもらいます。

▲可愛いランチョンマットのお土産ももらって、最後に全員で記念撮影。

最後は楽しいなぞなぞゲーム。

◀後日園児さん手作りの可愛らしい作品が店舗で展示されました。

産地収穫体験

メーカー様・お取引先様協同で開催する産地収穫体験や料理教室。2019年度は台風などの天候の影響で一部が中止になったものの、多くの方がこの体験に参加されました。親子で参加する収穫体験は、生産者から聞く「育てる苦労」を知ることで食べ物への感謝の心を育み、その後の食卓にも変化をもたらすような貴重な経験になっています。

参加者数 **349名**

▲みかん収穫体験

▲すいか収穫体験

しいたけ収穫体験▶

2019年度収穫体験・料理教室

	内　容	場　所	人数
3月16日	日生かき剥き体験・播磨フレッシュでのかき加工工場の見学	岡山県	16組39名
5月18日	第11回　月桂冠稲作体験 1回目	滋賀県彦根市	12組35名
6月15日	JAグリーン近江きゅうり・玉ねぎ収穫体験&料理教室	滋賀県近江八幡市	12組29名
6月16日	金沢すいか収穫体験	石川県金沢市	15組32名
9月21日	月桂冠稲作体験　2回目	滋賀県彦根市	11組30名
10月27日	第7回　大塚製薬大豆収穫体験	滋賀県蒲生郡	21組79名
11月16日	みかん収穫体験	和歌山県	17組37名
11月23日	南山城村したいけ収穫体験&バーベキュー教室	京都府相楽郡	15組34名
12月　7日	宝酒造・紀文おせち料理教室	京都府京都市	17組34名

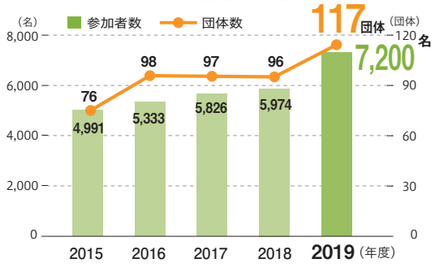
子ども環境学習「平和堂エコピースクラブ」

エコを楽しく学習

スーパーで働く人や仕事について調べる校外学習の場として、店舗では多くの学校を受け入れていますが、店舗見学と同時に、店舗が取り組む「エコ」について学べるよう、これまで活用していた教材を一新。リサイクルに特化した内容から、幅広く店舗について調べられるものに変更し、2019年度は参加団体が大幅に増えました。

エコピースクラブ
参加児童数
7,200名

▶「エコピースクラブ」参加者数の推移



▲リニューアルした教材

地域コミュニケーションの推進

地域の皆様と交流

各地の平和堂店舗で、地元の夏祭りに参加させていただいたり、店内で縁日を企画したりと、地域の皆様と楽しく交流させていただきました。

HATOC 夏祭り

2019年8月3日（土）に、平和堂本部において「HATOC 夏祭り」を開催しました。本部前の駐車場を利用した会場では屋台や縁日を準備し、メインステージでは様々なイベントが催されました。

猛暑の中でしたが昨年を上回るお客様にご来場いただき、縁日や盆踊りを楽しんでいただきました。

HATOC夏祭り
参会者数
約7,000名

多くの地元の方々にご参加いただきました。

地域密着店舗、フレンドタウン交野

2019年2月15日にオープンしたフレンドタウン交野では、「地域密着型ショッピングセンター」をコンセプトとした「毎日イベント」を開催しています。地元を中心としたパフォーマー達の発表や、写真展示、お客様参加型のイベントなどを開催することで、より地域に根差したショッピングセンターを目指しています。また、警察・消防・交野市などとも連携し、イベントを通して啓発活動の推進にも役立てています。

▲手づくりサンドイッチ教室

【イベントの一部をご紹介】

●手づくりサンドイッチ教室
「食育」に重点を置かれている山崎製パン様による手づくりサンドイッチ教室。毎月、応募が殺到する人気の企画です。

●七タダンスフェスティバル
100人を超えるダンスキッズが集まって開催した七タダンスフェスティバル。200人を超える観客が集まりフレンドテラスは満員に！最後はみんなで記念撮影。

●ベビーオイルマッサージ～てとて～
乳児向けオイルマッサージ教室の開催。同じ年代の子どもをもつママたちが集まるコミュニティの場としても活躍。フレンドタウン交野には小さなお子様づれがたくさん来られます。

●ココロワークショップ
社会福祉法人かたの福祉会様と企画した「ココロワークショップ」。さをり織り、ハンカチ草木染、ペーパーバッグ工作などを体験でき、社会貢献の一環にもなっています。

●ふれあい写真展
地元の写真家たちの展示の場として「ふれあい写真展」コーナーの設置。月替わりでデジカメ同好会、地元野鳥の会など現在4団体が参加してくれています。

▲七タダンスフェスティバル

▲ベビーオイルマッサージ～てとて～

▲フレンドタウン交野
イベントカレンダー

▲ココロワークショップ

スポーツ支援

第46回知事杯・第28回若ハト杯平和堂ママさんバレーボール大会

平和堂では1974年から「平和堂ママさんバレーボール大会」を開催しています。46回目となる2019年度は9月8日(日)、完成して間もない「くさつYMITアリーナ」において決勝日を迎え、4月の地区予選から勝ち上がった知事杯の部8チーム、若ハト杯の部4チームが優勝旗を争いました。

ラリーの応酬、熱戦につぐ熱戦の結果、知事杯の部は「富士見」、若ハト杯の部は「綾華クラブ」が優勝。各3位までのチームには、平松社長から表彰状、トロフィー、記念品が授与されました。

参加者数 **1,110名（74チーム）**

▲平松社長からメダル授与

◀ラリーが続く決勝戦

第36回平和堂カップ福井綱引大会

1985年に始まったこの大会は国内屈指の綱引大会で、平和堂は第1回目から協賛しています。2020年2月16日（日）に開催された第36回大会では、北陸、関西、中京エリアから多くのチームが参加。平和堂からも、アル・プラザベルとショッピングシティベルの合同チーム、そしてアル・プラザ鯖江がエントリーしました。試合開始とともに会場は熱気につつまれました。

参加者数 **1,577名（116チーム）**

◀ベルチームは見事、決勝トーナメントへ進出しました。

▲開会式であいさつする平松社長

第29回「平和堂カップ」春の全国小学生ドッジボール選手権　滋賀大会

2020年2月16日（日）、滋賀県湖南市総合体育館において第29回「平和堂カップ」春の全国小学生ドッジボール選手権の滋賀県予選大会が開催されました。滋賀県内の参加クラブチームは6チームと少ないものの、どのチームも優勝経験のある強豪クラブで、広島市で行われる全国大会出場を目指して熱戦が繰り広げられました。また、近隣の平和堂店舗を代表して甲西中央店の岩井次長が開会式に駆け付け、選手を激励しました。

▲熱戦が繰り広げられた大会

◀応援に駆け付け、開会式で挨拶
（甲西中央店 衣住次長 岩井哲也）

PICK UP　**地域コミュニケーション活動**

「第1回 関西スポーツ応援企業表彰 地域振興賞」受賞

関西広域連合と関西経済連合会により創設された「第1回関西スポーツ応援企業表彰」にて「地域振興賞」を受賞しました。平和堂は「滋賀県知事杯争奪平和堂ママさんバレーボール大会」や「平和堂カップ福井綱引大会」の開催など、地域とともに社員も運営支援や大会に参加し、継続して取り組んでいる点を評価いただきました。

◀大阪大学中之島センター
にて行われた表彰式の様子

第35回S&B・平和堂杯　ちびっこ健康マラソン大会※1

平和堂は「食育」をテーマに開催されるこの大会の趣旨に賛同し、本大会がスタートした 1984年から滋賀県代表として大会運営を行っています。11月2日に開催された大会では35回目の節目を迎え、記念企画として「親子伴走（未就学児）」を本競技前に行い、次年度への参加促進に繋げました。

※1　ちびっこ健康マラソン大会
「美味しく食べる、よく運動する、それによって真の健康が得られる」という「美味しさと健康」の理念に基づき、「21世紀を担う人づくり」をテーマに、スポーツを通じて心身ともに健康な子ども達を育成しようと、1984年より全国約40か所で大会が開催されています。

応募総数 **1,411名**

▲ちびっこ健康マラソン大会

第1回サントリー×平和堂　親子ビワイチ体験教室

県内外問わず、ビワイチ※2の参加者が年々増えている中、サントリー様と滋賀県様のご協力のもと、初心者向けの「親子ビワイチ体験教室」を春休み期間に開催しました。自転車の乗り方やマナーなど基礎知識を学べる体験教室となっており、この体験教室を足掛かりとしてビワイチ人口増加促進に貢献しています。

※2　ビワイチ
自転車で琵琶湖を一周する、略してビワイチ。走行距離は200km。琵琶湖岸の景色を楽しみながら走行できる爽快感、雄大な琵琶湖を走破したという達成感が味わえます。
滋賀県では観光交流局に「ビワイチ推進室」を設置し、より多くの方にビワイチを安全・安心に楽しんでもらえるように取り組んでいます。

当日参加者 **46名（23組）**

▲親子ビワイチ体験参加者の皆さん

PICK UP　**地域コミュニケーション活動**

ビワイチ「サイクルステーション」を設置し、観光を楽しむ方をサポート

2018年3月から、平和堂はサントリーフーズ株式会社様、サントリー酒類株式会社様と協働して、滋賀県内全店舗をビワイチの「サイクルステーション」として登録しています。登録に伴いビワイチプロジェクトを推進し、滋賀県と連携した活動を実施しています。

また、平和堂の一部の店舗では「サイクルステーション」の設置だけでなく、店内に観光マップやお土産品などを展示し、おすすめの地元情報もご提供しています。

▲平和堂今津店の地元高島紹介コーナー

びわスポキッズプログラム

平和堂は2009年からびわこ成蹊スポーツ大学が実施する「びわスポキッズプログラム」に協賛しています。このプログラムは、子どもたちの「スポーツの芽」を育むため、4歳児から小学3年生を対象に、びわこ成蹊スポーツ大学の学生キッズリーダーが子どもたちにスポーツの育成を行うものです。幼稚園・保育園への巡回指導や、年数回のフェスティバルを滋賀県下で実施されています。

元気に走り回る子どもたち▶

滋賀レイクスターズ×平和堂　2018-2019シーズンオフイベント活動

平和堂はBリーグ（国内男子バスケットボールリーグ）で活躍する滋賀レイクスターズのオフィシャルパートナーとして協賛、互いに連携し地域のお客様との交流の輪を広げ、県内のバスケットボール年少競技者を支援しています。

毎年、シーズン終了後にはお客様とのふれあいイベントを開催しており、今季は県内の店舗および小学校において合計5回のイベントを開催し、延べ800名のお客様に参加いただきました。

▲滋賀レイクスターズの選手とのふれあい体験

環境保全活動

第2回サントリー × 平和堂　湖岸清掃活動

平和堂とサントリー様、滋賀県様が一体となり、琵琶湖清掃活動と募金活動を実施しています。この活動は2008年から続けている「マザーレイク滋賀応援キャンペーン」の一環として実施しており、地域社会への貢献とともに、子どもたちの環境教育に繋げています。2019年度は、前年度より多くの方に参加いただきました。

参加者 **115** 名
（大人59名、子ども56名）

◀▲清掃活動風景

伊藤園× 平和堂　伊藤園びわ湖ヨシ刈り体験

「お茶で琵琶湖を美しく」をキーワードに、伊藤園様が行うヨシ刈り体験が滋賀県守山市の湖岸で開催されました。イベントには三日月大造滋賀県知事や宮本和宏守山市長をはじめ、伊藤園社員の方やお客様など300名以上、平和堂からも平松社長をはじめ社員10名が参加しました。当日は、手鎌を使って2メートルを超すヨシを刈るなど、皆さん気持ちのいい汗を流しました。

◀▲ヨシ刈り体験風景

滋賀県内の子ども食堂を支援

現在130か所を超えた滋賀県内の子ども食堂※1を、2017年から継続して支援をしています。滋賀県社会福祉協議会を通じて、年2回、平和堂商品券を贈呈するとともに店頭募金を合わせて寄附支援しています。2019年度は、平和堂から約600万円の商品券と店頭募金約95万円を各子ども食堂の開催回数に応じて配分し、必要な食材等の購入に活用いただきました。

※1　子ども食堂
貧困家庭や孤食の子どもに対し、食事や安心して過ごすことのできる場所を提供することを目的に始められた社会活動で、最近では地域のすべての子ども、親、地域の大人など、対象を限定しない食堂も増えています。地域のボランティアなどで運営し、公民館等の公的施設で月1～2回程度開催の食堂が多いです。

▲第5回子ども食堂支援寄附金・店頭募金の贈呈

▲甲賀市の17の子ども食堂作成の歌「大好き♡子ども食堂」発売、CDの販売代金の一部は子ども食堂へ寄付

環境保全への取組み

地域の森林保全「平和の森づくり」

平和堂では、生物多様性保全の一環として、平和堂グループの社員とその家族のボランティア参加による森林保全活動「平和の森づくり」を福井県、滋賀県、京都府、岐阜県の4府県5か所で展開しています。

2019年度は間伐材の有効利用をテーマに、福井泰澄の杜で2回、京都湯船森林公園で2回、岐阜池田山で1回、滋賀県では東近江愛郷の森とびわ湖地球市民の森で各1回の合計7回活動を行いました。

平和の森づくり
参加者数延べ **531** 名

▲間伐材を活用して遊歩道の整備

◀「平和の森・池田」に参加した皆さん（2019年11月6日）

PICK UP　「平和の森づくり」活動

「美しいふるさとづくり功労賞〈森づくり部門〉」受賞

福井県丹生郡越前町にある泰澄の杜での「平和の森づくり」活動は2009年から毎年2回実施しており、2019年度には10周年を迎えました。これを記念して福井県から「美しいふるさとづくり功労賞」の森づくり部門で知事表彰を受賞しました。

▲北陸営業部部長 北川嘉嗣

低炭素社会の実現

地球温暖化防止に努めています。

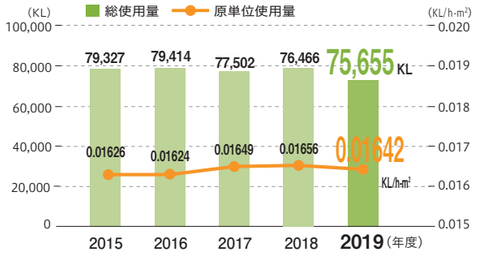
2019年度は、既存店舗の蛍光灯のLED化を集中的に取り組みました。これまでは効率の悪い水銀灯、FL/FLRを中心に行ってきましたが、本年度より、高効率なFHFも対象に加え、LED化を進めています。

また、昨年に引き続き、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を利用し、A重油を利用した空調設備を電気式の空調設備に更新し、フロン対策として新型高効率冷蔵冷凍ケースの更新、新型節水器他の導入を進めました。

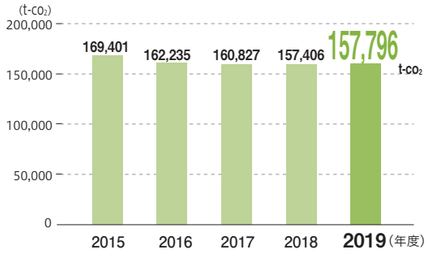
▲更新した冷媒機

一次エネルギー使用量
［原単位（営業時間x営業面積）］
2.47 %削減（昨対比）

▶ 一次エネルギー年間使用量の推移
（電気・ガス・石油類を原油量に換算）



▶ CO_2排出量の推移



お買い物袋持参運動

亀岡市レジ袋無料配布中止

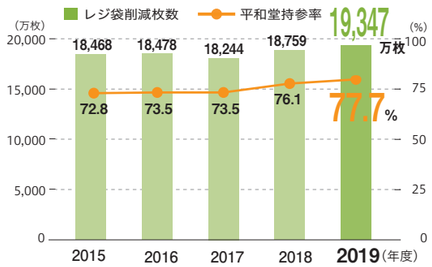
2019年度 レジ袋削減枚数 **19,347万枚**

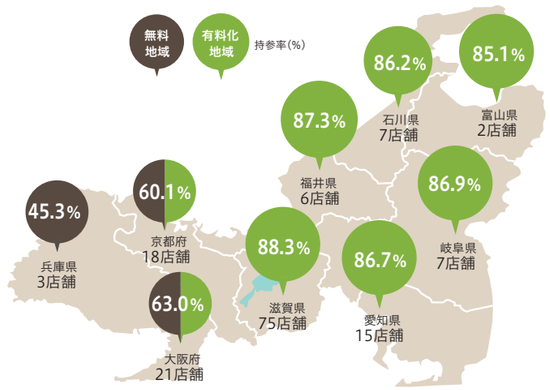
原油を節約 ドラム缶 **15,588本分**

2019年6月28日、京都府亀岡市からの呼びかけに応え、「亀岡市におけるエコバッグ等の持参及びレジ袋の大幅削減の取組みに関する協定」を締結し、同年8月20日よりアル・プラザ亀岡の食品売場におけるレジ袋の無料配布を中止しました。京阪地域においては、京都市、大阪府北摂地区に続いて3例目となり、レジ袋有料化によるマイバッグ持参の取組みの輪が増々広がってきています。

2019年度の平和堂全店におけるお買い物袋持参率は、昨年を1.6ポイント上回りました。また、エコバスケットは12,249個販売しました。

▶ お買い物袋持参率とレジ袋削減量の推移





府県別お買い物袋持参率 全154店舗(平均) 77.7%

PICK UP 「平和の緑づくり」活動

新たに大阪府に拡大

平和堂は一部地域を除いて、環境保全活動の一環として食品売場のレジ袋の無料配布中止に協力しています。有料で販売したレジ袋の販売収益金は府県の緑化推進会などに寄附し地域の小学校や幼稚園の緑化に役立てていただく「平和の緑づくり」活動が広がっています。

2019年度は、大阪府へも活動が広がって茨木市内の2か所のこども園で植樹を行い、滋賀県6か所、石川県2か所と合わせて合計10か所で緑化活動を実施しました。

◀花たちばな認定こども園の子どもたち

VOICE 店長の声

子どもたちの明るい未来を願いながら

2020年2月5日、茨木市の店舗を代表して、花たちばな認定こども園の植樹式典に出席し、27名の園児といっしょに園の名前にちなんで「たちばな」の苗木を植えました。植樹後は、NPOボランティア様と一緒に木々の大切さを学ぶこども教室にも参加し、寒い中でも元気いっぱいの子どもたちにパワーをもらったような楽しい植樹式でした。

真砂店 店長
上門 昭一郎

循環型社会への貢献

循環型社会の実現を目指しています。

平和堂リサイクルセンター

自社施設「平和堂リサイクルセンター」にて、資源の有効活用に取り組んでいます。ここでは、店頭回収したペットボトルや納品用ハンガーなどのプラスチック類、不要になった不燃物などを回収し、プラスチック・金属・ガラスなど、種類ごとに手選別で解体・分別しています。

分別されたものは固形燃料(RPF)化等の処理をしてリサイクルされており、特にプラスチック類は、素材ごとに破砕処理することで、リサイクル率を向上させています。

2019年度のリサイクル率は、91.5%で1,264tを資源として再活用できるようにしました。

平和堂リサイクルセンター リサイクル率 **91.5%**

廃棄物の削減

廃棄物のリサイクル率を向上させ、最終廃棄処分量を削減するために、廃棄物の総発生量・リサイクル量・最終処分量を管理しています。

2019年度の発生量は38,873tで、前年に比べ6,239t増加しましたが、リサイクル量も6,370t増加(30,191t)、最終処分量は131t減の8,683t、リサイクル率77.7%でした。

リサイクル率 **77.7%**

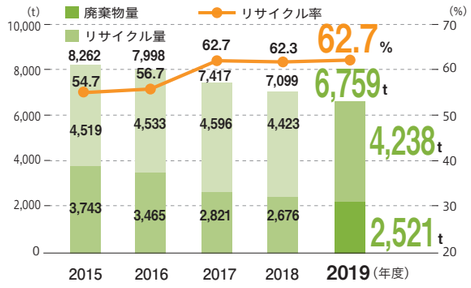
食品リサイクル

店舗で発生する食品廃棄物の抑制に取り組むとともに、食品リサイクルを推進しています。

2019年度は従来の魚アラ、野菜・果物くずに加え、一部エリアでデリカくずのリサイクルも開始しました。

この食品リサイクルにより堆肥化された野菜くずは「循環エコ野菜」に活用されるほか、リサイクル飼料として、畜産にも利用されています。年間の食品廃棄物の発生量は前年340t減の6,759t、リサイクル率62.7%でした。

▶ 食品リサイクル量の推移



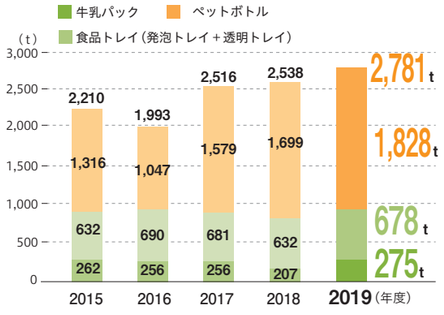
店頭での容器回収とリサイクルステーション

地域のリサイクル活動に貢献できるよう、店頭に専用回収BOXを設置し、使用済みの牛乳パック、食品トレイ(発泡・透明)、ペットボトルの回収を行っています。

また、リサイクルステーション(えこすぽっと、Rステーション、ecoひろば※1は新たに1店舗増え、現在59店舗まで拡大しました。お客様が持参された資源の重量に応じて専用カードにポイントが加算され、500ポイントで平和堂商品券と交換することができ好評です。

※1 eco ひろばは、5,000 ポイントで平和堂商品券と交換になります。

▶店頭回収量の推移



▶リサイクルステーション回収実績(2019年度)

環境マネジメント

全店でISO14001の認証を取得しています。

平和堂は、環境の国際規格（ISO14001）の認証を本部および全店で認証取得しており、社長をトップとした組織体制で環境マネジメントシステム（EMS）を運用しています。2019年度は8項目全てにおいて、目標を達成しました。

社会情勢や取り巻く環境の変化に対応しながら、循環型社会に貢献していけるようさらなる取組みを進めていきます。

▶2019年度の実績と2020年度の目標

◎ 目標を大幅に上回る　○ 目標達成　△ 目標未達　× 目標を大幅に下回る

環境方針	2019年度目標		2019年度実績		2020年度目標	
環境に配慮した商品づくりと提供を推進します	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上 2018年度実績 131億円	133億円	13,880,583千円 （昨年比：105.7%）	○	環境配慮型商品の販売拡大 環境セレクトの御奉仕高向上 環境セレクトの認知度向上	140億円
省エネルギー・省資源を推進します	一次エネルギー使用量の削減（電気・ガス・石油類） エコストア省エネ設備導入推進 2018年度対比（原単位）kwh/h・㎡	1%削減	0.070kwh/h・㎡ 2.47%削減（原単位） （昨年：0.072kwh/h・㎡）	◎	一次エネルギー使用量の削減（電気・ガス・石油類） エコストア省エネ設備導入推進 （原単位）2019年度対比	1%削減
	配送車両の使用燃料の削減 センター配送便数2018年度対比 （1店舗あたり月平均）	1%削減	累計便数 平均 169便 3.8%削減	◎	配送車両の使用燃料の削減 センター配送便数2019年度対比 （1店舗あたり月平均）	1%削減
	水道使用量の削減 2018年度対比（原単位）㍑/h・㎡	1%削減	0.318㍑/h・㎡ 3.01%削減（原単位）	◎	水道使用量の削減 （原単位）2019年度対比	1%削減
	紙の使用量削減 コピー用紙・POP用紙使用枚数 2018年度対比既存店総枚数/枚	1%削減	49,161千枚 2.3%削減	○	紙の使用量削減 コピー用紙・POP用紙使用枚数 2019年度対比既存店総枚数/枚	1%削減
地球温暖化防止のため、CO_2排出量を削減します	CO_2排出量の削減 2018年度対比（原単位）	1%削減	35,738t-CO_2/h・㎡ 1.15%削減	○	CO_2排出量の削減 （原単位）2019年度対比	1%削減
廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組みます	生ゴミのリサイクル率の向上 2018年度実績 62.0% （魚アラ・廃食油リサイクル等）	62.6%	59.0% （昨年比95.2%）	×	生ゴミのリサイクル率の向上 生ゴミ・魚アラ・廃食油リサイクルの推進	63.0%
地域社会の環境保全活動を支援します	平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習への参加団体の増加 2018年度実績96団体	100団体	117団体 （昨年比121.9%）	◎	平和堂エコピースクラブの拡大 子ども環境学習への参加団体の増加	120団体

環境会計

環境に配慮した経営を効率的に推進しています。

平和堂では、環境保全のための投資や費用を定量的に管理し、その効果を金額として把握することで、取組みの一層の効率化を図るとともに、合理的な意思決定を行うための環境会計に取り組んでいます。

集計範囲　株式会社平和堂（単体）　対象期間　2019年2月21日～2020年2月20日

▶環境保全コスト

（単位：千円）

分類		主な取組み内容	2018年度 投資額	2018年度 費用額	2019年度 投資額	2019年度 費用額
(1) 事業エリア内コスト			894,500	938,393	**60,169**	**1,825,167**
内訳	(1)-1 公害防止コスト	空調設備・排水設備の管理・検査ばい煙測定・微量PCB調査費		143,969	**24,400**	**138,908**
内訳	(1)-2 地球環境保全コスト	省エネ設備（空調・冷凍機・照明）導入 フロン回収破壊費	881,930	800	**23,694**	**828,011**
内訳	(1)-3 資源循環コスト	廃棄物のリサイクル・処理費リサイクルセンター運営費	12,570	793,624	**12,075**	**858,248**
(2) 上・下流コスト		容器包装リサイクル法再商品化委託料・お買い物袋持参エコポイント費		138,815		**168,187**
(3) 管理活動コスト		ISO審査登録コスト・専任者人件費 社員教育・CSR報告書作成費		32,017		**30,654**
(4) 研究開発コスト			—	—	—	—
(5) 社会活動コスト		平和の森づくり・有料レジ袋収益金寄附 環境展出展・子ども環境学習		14,419		**15,997**
(6) 環境損傷対応コスト			—	—	—	—
合計			894,500	1,123,644	**60,169**	**2,040,005**

■環境保全効果

①事業エリア内コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2018年度	2019年度
事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量（MWh）	280,149	**279,043**
	ガス使用量（千m^3）	2,848	**2,606**
	重油・灯油使用量（kl）	1,579	**1,486**
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	軽油使用量（kl）	5,241	**4,787**
	水道使用量（千m^3）	1,508	**1,487**
	CO_2排出量（t-CO_2）	157,406	**157,796**
	廃棄物総排出量（t）	32,634	**38,873**
	廃棄物最終処分量（t）	8,814	**8,683**
	排水量（千m^3）	1,508	**1,487**

②上・下流コストに対応する効果

分類	環境パフォーマンス指標（単位）	2018年度	2019年度
事業活動から産出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用削減枚数（千枚）	187,586	**193,467**
	牛乳パック回収量（t）	207	**275**
	食品トレイ回収量（t）	632	**678**
	ペットボトル回収量（t）	1,699	**1,828**

■環境保全対策にともなう経済効果

（単位：千円）

効果の内容		2018年度	2019年度
収益	店頭回収品リサイクル売却益	37,831	**42,286**
収益	有料レジ袋収益金	11,025	**11,405**
費用節減	省エネ設備導入効果	115,325	**149,196**
費用節減	お買い物袋持参推進によるレジ袋費の節減	464,584	**432,585**
費用節減	レジ袋使用減による容リ法再商品化委託料の節減	45,890	**46,294**
費用節減	リサイクル推進による廃棄物処理費の節減	9,310	**16,306**
合計		683,965	**698,072**

CSR活動一覧

「5つのハトのお約束」に基づく独自のCSR活動　平和堂は経営理念でもある「５つのハトのお約束」に基づいて、CSRの　取組み項目を整理し、各担当部署を中心に活動を推進しています。

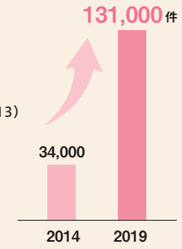
奉仕のハト

ISO26000中核主題／人権・消費者課題・コミュニティへの参画

2019年度の取組み項目

- 平和堂ホーム・サポートサービス(P9)
- お客様の声に基づく企業経営(P11)
- ノーマライゼーションの推進(P12)
- お客様満足度向上に向けたICTの活用(P13)

■ホーム・サポートサービス ご依頼件数の推移



今後の課題

・地域社会へのより積極的な貢献活動
・協働による地域課題の解決
・SDGｓなど国際イニシアチブ※1への対応

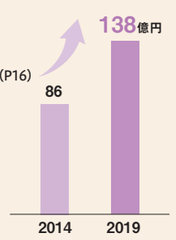
創造のハト

ISO26000中核主題／環境・消費者課題・コミュニティへの参画

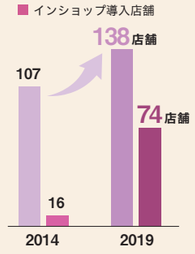
2019年度の取組み項目

- ライフスタイルの提案(P10)
- 地産地消の推奨(P14)
- 近江の魅力発見(P15)
- 平和堂ストアブランド「E-WA!」の拡大(P16)
- 環境貢献型商品(P19)

■環境セレクト商品 販売額の推移



■「地場野菜コーナー」取扱い店舗数の推移



今後の課題

・地域社会へのより積極的な貢献活動
・協働による地域課題の解決

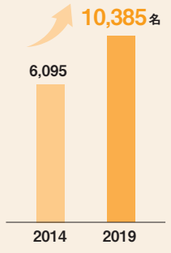
感謝のハト

ISO26000中核主題／組織統治・公正な事業慣行・消費者課題

2019年度の取組み項目

- 安全・安心な商品の提供(P20)
- 公正・公平な取引の推進(P22)
- 法令順守のための社員教育(P22)
- 適切な情報開示(P23)
- 株主優待制度のご案内(P23)

■株主数の推移



今後の課題

・品質管理体制のさらなる充実
・バリューチェーンマネジメントの強化※2
・よりニーズの高いIR情報の開示
・ESG投資※3を意識したエンゲージメント※4

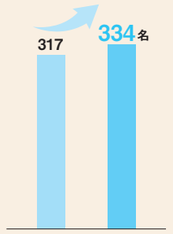
友愛のハト

ISO26000中核主題／人権・労働慣行

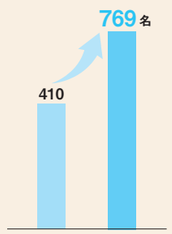
2019年度の取組み項目

- 社内コミュニケーションの活性化(P24)
- 新人事制度(P24)
- いきいき働ける職場づくり(P27)
- 人材育成(P24)
- ピカピカ実現活動(P28)
- 多様な働き方の推進(P26)

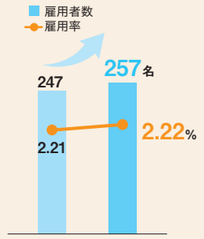
■ゆとりライフ制度 利用者数の推移



■女性キャリアアップ 研修参加者数の推移〈累計〉



■障がい者雇用者数・雇用率の推移



今後の課題

・働きやすく能力を活かせる労働環境の整備
・より有効な研修、教育制度の開発
・多様な働き方のための支援制度のさらなる充実

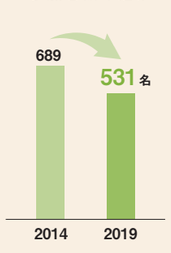
平和のハト

ISO26000中核主題／環境・消費者課題・コミュニティへの参画

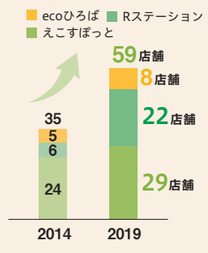
2019年度の取組み項目

- 地域の健康サポート(P8)
- 食育推進活動(P30)
- 子ども環境学習「平和堂エコピースクラブ」(P32)
- 地域コミュニケーションの推進(P33)
- 子ども食堂への支援(P36)
- 「平和の森づくり」活動(P37)
- 低炭素社会の実現(P37)
- お買い物袋持参運動(P38)
- 「平和の緑づくり」活動(P38)
- 循環型社会への貢献(P39)
- 環境マネジメント(P40)
- 環境会計(P41)

■「平和の森づくり」参加者数の推移



■リサイクルステーション設置店舗数の推移



今後の課題

・長期環境ビジョン策定
・CO_2排出量のさらなる削減
・再生可能エネルギーの活用
・ゼロ・エミッション※5へのチャレンジ
・SDGｓなど国際イニシアチブへの対応

■持続可能な開発目標とは

2015年9月に国連本部にて「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた17の目標と169のターゲットが「持続可能な開発目標（SDGs）」です。平和堂は事業活動を通じて世界共通の課題の解決に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

※1「国連グローバル・コンパクト」や「GRI」、「ISO26000」、「SDGs」などの国際的な原則や目標、ガイドライン。
※2 原材料の調達から製品・サービスがお客様に届くまでの一連の活動を適正に管理すること。
※3 環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字からなる、企業の成長に欠かせない3つの観点を重視した投資。
※4 情報交換や対話などを通じて、より積極的に関わり合う双方向のコミュニケーション。
※5 廃棄物の削減やリサイクルによって、廃棄物の排出をゼロにする仕組み、取組み。

平和堂グループのCSR活動

平和堂グループ各社の地域貢献に関する取組みについて紹介します。
グループ全体で、様々な事業を通して社会に貢献していきます。

小売業

㈱丸善
- 地域小学校の生徒の店舗見学
- 地域中学校の生徒の職場体験
- 地産地消推進、地元産品の取扱い

㈱エール
- 舞鶴の河川や海岸の清掃、環境啓発
- 地域の花火大会、花祭り等への協賛

農業生産

㈱サニーリーフ
- 全従業員の75%が障がい者
- 障がい者の方に働きやすい職場環境を提供

ビル総合管理・人材派遣

㈱ナショナルメンテナンス
- 障がい福祉サービス事業所利用者の施設外就労業務支援　取組み紹介
- 地域環境美化活動
- びわ湖環境美化活動
- 平和の森づくり活動

惣菜等の製造・加工・販売

㈱ベストーネ
- 地域保育園、こども園へ給食献立提供、保護者向け給食便りの製作
- 地域の子ども食堂に食材提供
- 地域中学校のランチルーム運営（クックチル方式で昼食を提供）
- 地産地消推進、滋賀県産食材の仕入
- 地域清掃活動、地域行事への協賛

飲食店・アミューズメント施設

㈱ファイブスター
- 地域中学校の生徒の職業体験受入れ
- 地産地消推進、滋賀県産食材の仕入
- 地域清掃活動、地域行事への参加
- 障がい者の雇用促進
- 東日本震災の義援金活動

㈱シー・オー・エム
- 地域中学校の生徒の職業体験受入れ
- 地域清掃活動や地域イベントへの出店

㈱ユーイング
- 地域清掃活動や地域行事への協力
- 地域中学校の生徒の職業体験受入れをスタート

書籍・CD・DVDの販売、レンタル

㈱ダイレクト・ショップ
- 地元出版書籍の取扱い強化
- 作文募集などの青少年育成事業に協力
- 地域の健康増進イベントに協力

ホテル

㈱グランドデュークホテル
- 地域中学校・高等学校の生徒の職業体験
- 地産地消推進、地元産品の販売
- 地域振興団体への加盟と協力

㈱ナショナルメンテナンスの活動を ご紹介します。

「自分らしく」輝くために！ はたらく力を育てるサポートをしています。

㈱ナショナルメンテナンスでは、job lead（就労移行支援事業所）様※から委託を受け、障がいを持った方の就職支援として就労に必要な知識や能力を向上してもらうことを目的に、その訓練場所として当社を利用いただいています。

4～5名で行っています

はたらく力を学ぶトレーニング

関連会社
株式会社ナショナルメンテナンス
〒522-0236　滋賀県彦根市犬方町790番地
事業内容：ビル総合管理業・人材派遣業

job lead（就労移行支援事業所）
- コミュニケーションスキル
- 職業体験学習
- 社会人スキル
- 生活・自立スキル

週に2回（1回90分程度）研修室の清掃を通して、チームで仕事するスキルを学びます。

ほめてもらうと、とても仕事が楽しいと思います。落ち着いて、丁寧な作業を心がけています。

大橋 滉平 さん

その他、こんな作業も！
- 給与明細の封入作業
- 当社清掃管理業務に同行しての清掃作業

job lead様からのメッセージ

高松 光照 様
（job lead所長）

社員の皆様が訓練生たちにわかりやすく一つひとつ丁寧に作業の指示を出してくださっているので、大変感謝しております。会社でみんなと同じように頑張りたい、働きたいという気持ちを持っている彼らが、ビジネススキルを獲得し、企業就職していくには、このような企業現場でのトレーニングがとても効果的です。今後ともサポートをお願いいたします。

訓練生の成長する姿を見るのがうれしいですね

橋本 典子 様
（job lead 就労支援員）

訓練生の「やってみたい」と思う気持ちや得意なことを大切にしながら、育成プログラムを作成しています。ご担当者様から「すごくキレイになったね！」と声をかけてもらってとても嬉しかったと話をしてくれることもあります。

「障がい」は個性のひとつ！能力の高いところを生かして、会社にも貢献してくれています。

人事総務部人事課　角 友晋マネージャー

1年を通して訓練生を見ていると、テキパキと作業ができるようになっていく姿が見られて、自信が表情からも伝わってきます。私自身は訓練生との距離感を大切にしていて、あえて気を遣わず、やる気を出してもらえるような声掛けを心がけています。

訓練生から社員へ

訓練期間中の作業を見て、仕事面でも当社に貢献してくれるだろうと判断し、直接雇用させていただきました。

職場の雰囲気が良くて、とても仕事がしやすいです。毎日頑張って働きたいと思います。

パソコンでの入力作業を行っています
分からないことは自分で判断せず、
きちんと聞くようにします。

西沢 直弥 さん
（2018年8月入社）

職場の声

西沢さんは入力のスピードも速くミスもないので、仕事面でもとても信頼できます。また、職場内でも一番大きな挨拶をしてくれるので、職場内が明るくなりました。

VOICE　担当者の声

地域にある企業として地域とともに育っていく

当社は地域とのつながりを大切にしたいとの思いから、このような就労訓練場所としてご協力させていただいております。障がいをお持ちの方でも一人ひとりが自分の能力を活かして輝いてほしいと願っており、今後もジョブリード様と連携を取りながら見守っていきたいですね。今後の課題は、清掃作業の各現場責任者により理解してもらうことです。不安感などを取り払えるよう努め、社会全体で支えていけたらと考えています。

㈱ナショナルメンテナンス　人事総務部人事課長
清水 義隆

※NPO法人江朋会　job lead（就労移行支援事業所）
就労を希望する障がいを持つ方の就職移行支援や職場 定着支援を行っています。パソコンや軽作業など、面談を通して一人ひとりに合わせたプログラムに基づいてトレーニングを行います。

若人たちの飛躍を願って

公益財団法人平和堂財団は、株式会社平和堂の創業者・故夏原平次郎が、平和堂を今日の企業に育てていただいた地域の方々に感謝し、そのご恩に報いるため私財を寄付し、1989（平成元）年3月に設立しました。滋賀県の教育、文化、体育、環境、児童福祉にかかわる各種助成や事業を行い、地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

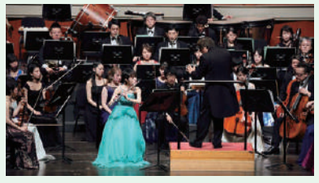
2019年度、財団は 設立30周年を迎えました。

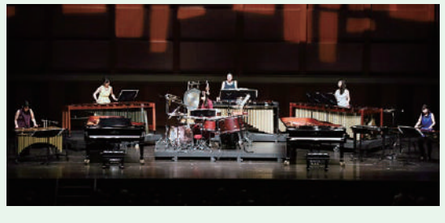
平和堂財団設立30周年記念事業

ガラ・コンサート2020

財団設立30周年記念事業として、2020年1月26日（日）、びわ湖ホール 大ホールにて「ガラ・コンサート2020」が開催されました。このコンサートでは、平和堂財団芸術奨励賞受賞者28名をはじめ、滋賀県内で活躍する演奏家を含めた総勢85名による豪華メンバーが一堂に会し盛大に行われ、1,600名を無料招待しました。

（主な演奏者）打楽器　宮本 妥子
ヴァイオリン　玉井 菜採
フルート　山本　英
ピアノ　久末　航





VOICE

滋賀の音楽シーンを豊かにしたい

萩野 美智子 様
（一般社団法人ブラームスホール協会　理事長）

25年前、平和堂財団事務局から突然のオファーにより音楽事業をお手伝いすることになりました。「芸術奨励賞受賞が滋賀の若手音楽家のステータスになるべく、その目的に沿った事業を実施しましょう」・・それから試行錯誤の25年。受賞者による「リサイタルのタベ」は「鳩の音楽会」に発展し、彦根・高槻・大津で開催。2009年より始めた「ガラ・コンサート」は3回目を迎えました。滋賀の音楽シーンを豊かにする一翼を担える事業に育ってきたのではないかと自負しております。

2019年度の主な活動

1 教育事業

給付型育英奨学金制度（返済必要なし）

・大学進学者育英奨学生⇒年間60万円の支援
・高校在学生育英奨学生⇒年間24万円の支援
・滋賀医科大学育英奨学生⇒年間60万円の支援

▲夏原理事長による講義

▲奨学生の集いには、大学卒業OB奨学生である1回生と4回生が毎年参加しています。

第11回 いきいきすくすく淡海っ子活動 募集パンフを掲載

「いきいきすくすく淡海っ子活動」は、それぞれの地域で定期的、継続的に実施されている子どもたちの育成活動をおこなっているグループ、団体に対して、必要な活動資金を助成しています。2019年度は21団体に総額150万円の活動費を助成しました。

「いきいきすくすく淡海っ子活動」▶募集パンフレット

2 文化事業

鳩の音楽会2019

平和堂財団芸術奨励賞受賞者5名による「鳩の音楽会」が6月13日・14日・16日の3日間で開催され、合計1,400名のお客様を無料ご招待しました。

▲2019年度「鳩の音楽会」

2019年度芸術奨励賞贈呈式

2019年度芸術奨励賞には美術部門4名、音楽部門3名が受賞。受賞者の活動支援を行っています。

▲2019年度芸術奨励賞贈呈式

3 環境事業

2019年度夏原グラント贈呈式

2019年度助成団体数　⇒59団体　合計1,600万円助成

▲環境整備活動
「志津南環境ボランティアの会」
高齢化による放置家屋対策として、庭木の剪定を行っています。

▲里山保全活動
「荒神山ファンクラブ」
間伐・粗大ごみ撤去し、環境改善を行っています。

◀2019年度夏原グラント贈呈式
（4月20日草津エストピアホテルにて開催）

4 児童福祉事業（児童養護施設入所児童の支援）

就学児童支援

毎年、新入学児童予定者にランドセル・文具セット・ギフト券を贈呈しています。

◀▲ランドセル贈呈風景

普通自動車免許の取得補助

最大30万円までの補助

愛のハト育英奨学金制度

大学、専門学校、短大進学者育英奨学金⇒年間60万円の支援
入学時には入学金等費用の支援⇒30万円の支援

コーポレート・ガバナンス

経営の効率化と公平性・透明性の向上に向けた体制を整えています。

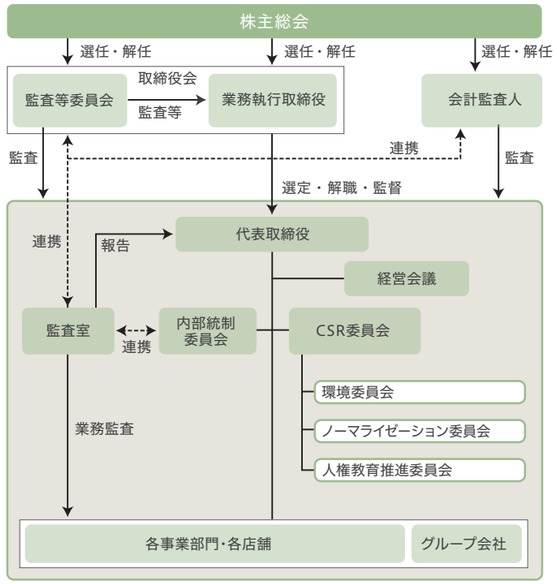
経営上の最高意思決定機関である取締役会を毎月開催するほか、経営意思決定のための協議機関として経営会議を毎月2～3回開催するなど、経営の基本方針に基づいて業務上の主要事項を審議決定しています。取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く）8名と監査等委員である取締役4名の計12名で構成されており、取締役（監査等委員である取締役を除く）には社内出身者に加え、他企業で実務経験を積んだ人材を選任し、幅広い視点から議論を交わしています。また、監査等委員である取締役4名のうち3名は社外取締役で、幅広い視野および客観的な立場から企業戦略について総合的な助言がされています。

会社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながる対応として、当社は「コーポレート・ガバナンス・コード」への対応を積極的に推進し、その内容を踏まえた報告書を開示しています。

さらに、健全な企業活動の仕組みを整備運用する「内部統制委員会」を組織し、コンプライアンスに関する事項全般について情報収集や対策を立案し、その内容を委員長に報告・指示を受ける体制を整えています。

2020年度は業務執行取締役に社外取締役を迎える予定になっており、経営の透明性の向上に向けた体制も整えています。

■コーポレート・ガバナンスに関する仕組み



（2020年2月20日現在）

■ガバナンス状況報告
URL https://www2.tse.or.jp/disc/82760/140120181126441381.pdf

コンプライアンス

コンプライアンス浸透に向けた組織・風土づくりを進めています。

コンプライアンスの維持やリスク管理、ノーマライゼーション、セクシャル・ハラスメント、接客教育の「しつけ、身だしなみ」などを周知徹底するため、従業員全員に項目別に重要ポイントをまとめた手帳タイプの「平和堂マニュアル」を配付しています。このマニュアルには「わたしたちの行動基準」という業務全般において順守すべき事項が記載されており、コンプライアンスに関する行動規範を周知するとともに、一人ひとりの意識を高めています。

また、当社はコンプライアンス・マニュアルに基づき、反社会的勢力に対して係わりを一切持たず、このような団体・個人から不当な要求を受けた場合には、警察等外部機関と連携し、関係部署が連携・協力して組織的に対応いたします。

さらに、コンプライアンスに関する従業員からの通報や相談を受け付ける内部通報窓口として「平和堂クリーンライン」と、「人権ホットライン（人権相談窓口）」を設置しています。さらに、「社外通報窓口」を平和堂グループ全体の通報窓口として設置し、コンプライアンス体制を整備しています。

リスクマネジメント

内部統制委員会においてリスクレビューを実施し、危機管理に対して取組みを行っています。

事業継続計画（BCP）に関する取組み

大地震等の自然災害や甚大な被害をもたらす危機が発生した場合、当社が機能や役割を回復し事業継続することを目的とした事業継続計画（BCP）の強化に努めています。「災害マニュアル」を各店舗・本部に備えつけ、予防体制とともに災害発生時の対応を定めています。また、各店舗・本部において対象市町村発行のハザードマップを定期的に取得し、被災想定区域や避難場所などを把握し、防災対策に活用しています。

従業員には災害時での指針や行動を記した「災害時行動心得」の配付を行うとともに、災害発生時に人命第一を基本に被害の最小化と各人の役割・行動を再確認するため各店舗・本部において消防訓練を行っています。また、本部においては災害発生時、本部が速やかに災害対策本部を設置するための初動訓練を行っています。また、災害時に社員の安否や出勤が可能かを確認する「安否確認システム」を利用した訓練も定期的に実施しています。今年度は安否確認システムの対象者をアルバイトまで広げて対象（23,000人）まで拡大して定期的に訓練を実施しています。

個人情報保護・セキュリティに関する取組み

当社では個人情報の取扱いに関する「個人情報保護方針」を定めています。方針に基づき個人情報の管理に関する「個人情報管理マニュアル」「パソコン管理マニュアル」「HOP カードマニュアル」などを整備し、個人情報の保護に取り組んでいます。

店舗で発生する事件・事故に関する取組み

当社は、各店舗において日常的に発生する事件や事故などについて素早く対応するため、社内ネットワークを利用した「事件・事故報告」によって、迅速な解決と情報を共有できる体制を構築しています。

地域との連携

行政との「災害協定」の締結

平和堂は、大規模地震等の災害発生時に、食料品、日用品、衣料品などの生活物資を被災者へ迅速に供給するために46の自治体と、災害時の生活物資の供給等に関する協定を締結しています。2019年度（2020年3月31日現在）は、新たに４行政と災害協定を締結し、今後も締結エリアを拡大してまいります。

PICK UP!

「災害対策本部設置および初動訓練」の実施

平和堂は、南海トラフ地震発生時を想定した「災害対策本部設置および初動訓練」を実施し、有事の際に迅速に対応できるようにしています。2019年度は、5月、10月、2020年1月の３回実施し、部課長および本部近隣在住者を中心に災害対策本部の立ち上げから初動対応としての情報収集等の訓練を行っています。訓練参加者は、地震情報・インフラ情報・人的被害・安否確認・建物および商品被害・システム被害・物流状況・商品調達などの情報を手分けして収集し、ホワイトボードに簡潔にまとめ、全員で情報共有できるように訓練しています。

災害対策本部初動対応訓練▶
（2020年1月20日）

「平和堂CSR報告書2019」の編集にあたり、NGO団体GRI（Global Reporting Initiative）が発行する企業の持続可能性に関する報告書の国際的なガイドライン「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参考にしています。
※報告している項目のみを抜粋して掲載しています。

一般開示事項

項目	指標	該当項目
組織のプロフィール		
102-1	a. 組織の名称	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-2	a. 組織の事業活動に関する説明 b. 主要なブランド、製品、およびサービス。特定の市場で販売が禁止されている製品またはサービスがあれば、その説明を含める	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-3	a. 組織の本社の所在地	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-4	a. 組織が事業展開している国の数、組織が重要な事業所を有している国、報告書中に記載しているテーマに特に関連のある国の名称	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/g_top.html
102-5	a. 組織の所有形態や法人格の形態	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
102-6	a. 参入市場（次の事項を含む） i. 製品およびサービスを提供している地理的な場所 ii. 参入セクター iii. 顧客および受益者の種類	〈グループ企業〉 https://www.heiwado.jp/profile/g_top.html
102-7	a. 組織の規模（次の事項を含む） i. 総従業員数 ii. 総事業所数 iii. 純売上高（民間組織について）、純収入（公的組織について） iv. 株主資本および負債の内訳を示した総資本（民間組織について） v. 提供する製品、サービスの量	〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html 〈報告書〉https://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html
102-8	a. 雇用契約（正社員と臨時雇用者）別、男女別の総従業員数 b. 雇用契約（正社員と臨時雇用者）別、地域別の総従業員数 c. 雇用の種類（常勤と非常勤）別、男女別の総従業員数 d. 組織の活動の相当部分を担う者が、従業員以外の労働者であるか否か。該当する場合、従業員以外の労働者が担う作業の性質および規模についての記述 e. 開示項目 102-8-a、102-8-b、102-8-c で報告する雇用数に著しい変動（例えば観光業や農業における雇用の季節変動）があれば報告する f. データの編集方法についての説明（何らかの前提があればそれも含める）	多様な人材の雇用（P26）
102-10	a. 組織の規模、構造、所有形態、またはサプライチェーンに関して発生した重大な変更。例えば、 i. 所在地または事業所の変更（施設の開設や閉鎖、拡張を含む） ii. 株式資本構造の変化、その他資本の形成、維持、変更手続きの実施による変化（民間組織の場合） iii. サプライヤーの所在地、サプライチェーンの構造、またはサプライヤーとの関係の変化（選択や終了を含む）	（該当なし）
102-11	a. 組織が予防原則や予防的アプローチに取り組んでいるか。またその取り組み方	CSR マネジメント（P48-49）
102-12	a. 外部で作成された経済、環境、社会憲章、原則あるいはその他のイニシアティブで、組織が署名または支持したものの一覧	環境マネジメント（P40）
戦略		
102-14	a. 組織が予防原則や予防的アプローチに取り組んでいるか。またその取り組み方	トップメッセージ（P3-6）
倫理と誠実性		
102-16	a. 組織の価値観、理念および行動基準・規範についての記述	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-17	a. 組織内外に設けられている次の制度についての説明 i. 倫理的行為、合法行為や組織の誠実性について求められる助言を提供する制度 ii. 非倫理的行為または違法行為についての懸念や、組織の誠実性に関する事項の通報に対処する制度	CSR マネジメント（P48-49）
ガバナンス		
102-18	a. 組織のガバナンス構造。最高ガバナンス組織の委員会を含む b. 経済、環境、社会的テーマに関する意思決定に責任を負っている委員会	CSR マネジメント（P48-49）
102-19	a. 最高ガバナンス組織から役員や他の従業員へ、経済、環境、社会的テーマに関して権限委譲を行うプロセス	CSR マネジメント（P48-49）
102-21	a. ステークホルダーと最高ガバナンス組織の間で、経済、環境、社会的テーマについて協議を行うプロセス b. 協議が権限移譲されている場合は、誰に委任されているか、最高ガバナンス組織への結果のフィードバックをどのように行っているか	CSR マネジメント（P48-49）
102-23	a. 最高ガバナンス組織の議長が組織の執行役員を兼ねているか否か b. 議長が執行役員を兼ねている場合、組織の経営におけるその者の役割と、そのような人事の理由	CSR マネジメント（P48-49）
102-26	a. 経済、環境、社会的テーマに関わる組織の目的、価値観、ミッション・ステートメント、戦略、方針、および目標の策定、承認、更新に際して、最高ガバナンス組織と役員が果たす役割	CSR マネジメント（P48-49）
102-30	a. 経済、環境、社会的テーマに関わる組織の目的、価値観、ミッション・ステートメント、戦略、方針、および目標の策定、承認、更新に際して、最高ガバナンス組織と役員が果たす役割	CSR マネジメント（P48-49）
102-32	a. 組織のサステナビリティ報告書の正式なレビューや承認を行い、すべてのマテリアルなテーマが取り上げられていることを確認する機能を果たしている最高位の委員会または役職	第三者意見（P55）
102-33	a. 最高ガバナンス組織に対して重大な懸念事項を通知するために設けられているプロセス	CSR マネジメント（P48-49）
102-34	a. 最高ガバナンス組織に通知された重大な懸念事項の性質と総数 b. 重要な懸念事項の対処、解決のために使われた手段	（該当なし）
ステークホルダー・エンゲージメント		
102-40	a. 組織がエンゲージメントしたステークホルダー・グループの一覧	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-42	a. 組織がエンゲージメントするステークホルダーを特定・選定する基準	平和堂グループの価値創造（P1-2）
102-43	a. ステークホルダー・エンゲージメントを行うための組織のアプローチ方法。種類別、ステークホルダー・グループ別のエンゲージメント頻度を含む。また、行ったエンゲージメントが、特に報告書作成プロセスの一環として行ったものか否かを示す	公正・公平な取引の推進（P22） 読者とのコミュニケーション（P54）
102-44	a. ステークホルダー・エンゲージメントにより提起された主なテーマや懸念。次の事項を含む i. 組織がそれにどう対応したか（報告を行って対応したものを含む） ii. 主なテーマや懸念を提起したステークホルダー・グループ	平和堂の「地域共創」（P7-10） 公正・公平な取引の推進（P22） 読者とのコミュニケーション（P54）
報告実務		
102-45	a. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっているすべての事業体の一覧 b. 組織の連結財務諸表または同等文書の対象になっている事業体のいずれかが報告書の掲載から外れていることはないか	〈報告書〉https://www.heiwado.jp/ir/jigyo_top.html
102-46	a. 報告書の内容およびテーマのバウンダリーを確定するためのプロセスの説明 b. 組織が報告書の内容を確定する際、報告原則をどのように適用したかの説明	編集方針（P1）
102-47	a. 過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、再記述の影響および理由	平和堂グループの価値創造（P1-2）、GRI 対照表（P50-53）
102-48	a. 過去の報告書で提供した情報を修正再記述する場合、再記述の影響および理由	（該当なし）
102-49	a. マテリアルなテーマおよびテーマのバウンダリーについて、過去の報告期間からの重要な変更	（該当なし）
102-50	a. 提供情報の報告期間	編集方針（P1）
102-51	a. 最新の発行済報告書の日付（該当する場合）	編集方針（P1）
102-52	a. 報告サイクル	編集方針（P1）
102-53	a. 報告書またはその内容に関する質問の窓口	編集方針（P1）
マネジメント手法		
103-1	a. 項目がマテリアルである理由の説明 b. マテリアルなテーマのバウンダリー。次の記述を含む i. どこで影響（インパクト）が発生するか ii. 影響に対する組織の関与。例えば、影響の直接または間接の原因が組織にあるか否か、組織がビジネス関係を通じて影響に直接結びついたか否か c. バウンダリーに関する特定の制約事項	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P40） 〈環境方針〉 https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
103-2	a. 組織がそのテーマをどのようにマネジメントしているかの説明 b. マネジメント手法の目的に関する声明 c. マネジメント手法に次の要素が含まれている場合、各要素についての説明 i. 方針 ii. コミットメント iii. ゴールおよびターゲット iv. 責任 v. 経営資源 vi. 苦情処理制度 vii. 具体的な措置（プロセス、プロジェクト、プログラム、イニシアティブなど）	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P40） 〈環境方針〉 https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
103-3	a. 組織によるマネジメント手法の評価方法。次の事項を含む i. マネジメント手法の有効性を評価する仕組み ii. マネジメント手法の評価結果 iii. マネジメント手法に関連して調整を行った場合、その内容	平和堂グループの価値創造（P1-2） 編集方針（P1） 環境マネジメント（P40） 〈環境方針〉https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html

経済

項目	指標	該当項目
経済パフォーマンス		
201-1	a. 創出、分配した直接的経済価値（発生主義ベースによる）。これには、組織の全世界の事業所について、次に一覧表示する基本要素を含める。データを現金主義で表示する場合は、その判断理由を次の基本要素に加えて報告する i. 創出した直接的経済価値：収益 ii. 分配した経済価値：事業コスト、従業員給与と福利、資本提供者に対する支払い、政府に対する支払い（国別）、コミュニティへの投資 iii. 留保している経済価値：「創出した直接的経済価値」から「分配した経済価値」を引いたもの b. 影響が著しいものについて、創出・分配経済価値を国、地域、市場レベルに分けて報告する。また「著しい」と判断する基準も報告する	環境会計（P41）
201-4	a. 組織が報告期間中に各国政府から受け取った財務援助の総額。報告には次の項目を含めること i. 減税および税額控除 ii. 補助金 iii. 投資奨励金、研究開発（R&D）助成金、その他関連助成金 iv. 賞金 v. 特許権等使用料免除期間 vi. 輸出信用機関（ECA）からの財務援助 vii. 金銭的インセンティブ viii. その他、事業所が政府から受け取った財務利益、または受け取る予定の財務利益 b. 201-4-a の情報の国別内訳 c. 組織の株式保有構造における政府出資の有無、出資割合	（該当なし）
間接的な経済的影響		
203-1	a. 重要なインフラ投資や支援サービスを展開した範囲 b. コミュニティや地域経済に与えている影響、または与えると思われる影響。プラスとマイナス双方の影響を含む（該当する場合） c. 当該投資、サービスが商業目的のものか、現物支給するものか、無償で実施するものかを報告する	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
203-2	a. 組織が与える著しい間接的な経済的影響（プラスおよびマイナス）と特定された事例 b. 外部のベンチマークやステークホルダーの優先事項（国内および国際的な基準、協定、政策課題など）を考慮した場合の間接的な経済的影響の「著しさ」	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
腐敗防止		
205-2	a. ガバナンス組織メンバーのうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順の通達を行った者の総数と比率（地域別に） b. 従業員のうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順の通達を行った者の総数と比率（従業員区分別、地域別に） c. ビジネスパートナーのうち、腐敗防止に関する組織の方針や手順について通達を行った者の総数と比率（ビジネスパートナー種類別、地域別に）。腐敗防止に関する組織の方針や手順が、その他の個人または組織に伝達されているかどうかを記述する d. ガバナンス組織メンバーのうち、腐敗防止に関する研修を受講した者の総数と比率を、地域別に報告する e. 従業員のうち、腐敗防止に関する研修を受講した者の総数と比率（従業員区分別、地域別に）	CSR マネジメント（P48-49）
205-3	a. 確定した腐敗事例の総数と性質 b. 確定した腐敗事例のうち、腐敗を理由に従業員を解雇または懲戒処分したものの総数 c. 確定した腐敗事例のうち、腐敗関連の契約違反を理由にビジネスパートナーと契約破棄または更新拒否を行ったものの総数 d. 報告期間内に組織または組織の従業員に対して腐敗に関連した訴訟が提起されている場合、その事例と結果	（該当なし）
206-1	a. 組織の関与が明らかとなった反競争的行為、反トラスト法違反、独占禁止法違反により、報告期間中に法的措置を受けた事例（終結しているもの、していないもの）の件数 b. 法的措置が終結したものについては、結果（決定や判決を含む）の主要点	（該当なし）

環境

項目	指標	該当項目
原材料		
301-1	a. 組織が報告期間中に主要製品やサービスの生産、梱包に使用した原材料の重量または量の合計。次の分類により報告する i. 使用した再生不能原材料 ii. 使用した再生可能原材料	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
301-2	a. 組織の主要製品やサービスの生産に使用したリサイクル材料の比率	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
301-3	a. リユース・リサイクルされた製品と梱包材の比率。製品区分別に報告する b. 本開示項目のデータ収集方法	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
エネルギー		
302-1	a. 組織内における非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量（ジュールまたはその倍数単位（キロ、メガなど）による）。使用した燃料の種類も記載する b. 組織内における再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量（ジュールまたはその倍数単位による）。使用した燃料の種類も記載する c. 下記の総量（ジュール、ワット時、またはその倍数単位による） i. 電力消費量 ii. 暖房消費量 iii. 冷房消費量 iv. 蒸気消費量 d. 下記の総量（ジュール、ワット時、またはその倍数単位による） i. 販売した電力 ii. 販売した暖房 iii. 販売した冷房 iv. 販売した蒸気 e. 組織内におけるエネルギー総消費量（ジュールまたはその倍数単位による） f. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール g. 使用した変換係数の情報源	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
302-4	a. エネルギー消費の削減および効率化の取り組みによる直接的な結果としてエネルギー消費量が削減できた場合、その削減量（ジュールまたはその倍数単位（キロ、メガなど）による） b. 削減したエネルギーの種類（燃料、電力、暖房、冷房、蒸気、またはこの全部） c. エネルギー消費削減量の算出に使用した基準（基準年、基準値など）と、その基準選定の論理的根拠 d. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html

GRIガイドライン対照表

項目	指標	該当項目
エネルギー		
302-5	a. 販売する製品およびサービスが必要とするエネルギーの報告期間内におけるエネルギー削減量（ジュールまたはその倍数単位（キロ、メガなど）による） b. エネルギー消費削減量の算出に使用した基準（基準年、基準値など）、および基準選定の論理的根拠 c. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
水		
303-1	a. 水源からの総取水量。次の水源別内訳による i. 地表水（湿地、河川、湖、海などからの水を含む） ii. 地下水 iii. 組織が直接貯めた雨水 iv. 他の組織からの廃水 v. 地方自治体の水道や他の公営・民間水道施設 b. 使用した基準、方法、前提条件	環境マネジメント（P40） 環境会計（P41）
大気への排出		
305-1	a. 直接的（スコープ 1）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2））による） b. 計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） c. 生物由来の CO_2 排出量（CO_2 換算値（t-CO_2））による） d. 該当する場合、計算の基準年（以下の項目を含める） i. その基準年を選択した根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数（GWP）、GWP 情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ（株式持分、財務管理、経営管理） g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
305-2	a. ロケーション基準の間接的（スコープ 2）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2））による） b. あてはまる場合には、マーケット基準の間接的（スコープ 2）GHG 排出量の総計（CO_2 換算値（t-CO_2））による） c. データがある場合には、総計計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） d. 該当する場合、計算の基準年（以下の項目を含める） i. その基準年を選択した根拠 ii. 基準年における排出量 iii. 排出量に著しい変化があったため基準年の排出量を再計算することになった場合は、その経緯 e. 使用した排出係数の情報源、使用した地球温暖化係数（GWP）、GWP 情報源の出典 f. 排出量に関して選択した連結アプローチ（株式持分、財務管理、経営管理） g. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
305-5	a. 排出量削減活動を実施した結果、直接的な成果として達成した GHG 排出削減量（CO_2 換算値（t-CO_2））による） b. 計算に用いたガス（CO_2、CH_4、N_2O、HFC、PFC、SF_6、NF_3、または全部） c. 基準年または基準値、およびそれを選択した根拠 d. GHG 排出量削減となったスコープ。直接的（スコープ 1）、間接的（スコープ 2）、その他の間接的（スコープ 3）のいずれか e. 使用した基準、方法、前提条件、計算ツール	平和堂の CSR 活動（P11-41） 〈会社概要〉https://www.heiwado.jp/profile/gaiyo.html
排水および廃棄物		
306-2	a. 有害廃棄物の総重量（次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示） i. リユース ii. リサイクル iii. 堆肥化 iv. 回収（エネルギー回収を含む） v. 焼却（大量燃焼） vi. 深井戸注入 vii. 埋め立て viii. 現場保管 ix. その他（詳細を記述） b. 非有害廃棄物の総重量（次の処分方法を用いている場合には、この処分方法別に内訳を提示） i. リユース ii. リサイクル iii. 堆肥化 iv. 回収（エネルギー回収を含む） v. 焼却（大量燃焼） vi. 深井戸注入 vii. 埋め立て viii. 現場保管 ix. その他（詳細を記述） c. 廃棄物処分方法の判定方法 i. 自ら処分している場合または直接確認した場合 ii. 廃棄物処分請負業者から提供された情報による場合 iii. 廃棄物処分請負業者からの報告がない場合	環境マネジメント（P40） 環境会計（P41） 〈環境方針〉 https://www.heiwado.jp/eco/eco_torikumi.html
306-3	a. 記録した重大な漏出の総件数と総漏出量 b. 組織の財務報告書で報告している漏出のそれぞれにつき、次の追加情報 i. 漏出場所 ii. 漏出量 iii. 次の分類による漏出物。油漏出物（土壌または水面）、燃料漏出物（土壌または水面）、廃棄物の漏出（土壌または水面）、化学物質の漏出（多くは土壌または水面）、その他（詳細を記述） c. 重大な漏出のインパクト	（該当なし）
306-4	a. 次の各事項の総重量 i. 輸送された有害廃棄物 ii. 輸入された有害廃棄物 iii. 輸出された有害廃棄物 iv. 処理された有害廃棄物 b. 国際輸送された有害廃棄物の割合 c. 使用した基準、方法、前提条件	（該当なし）
環境コンプライアンス		
307-1	a. 環境法規制の非遵守で被った高額の罰金や罰金以外の制裁措置（下記の観点による） i. 高額罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 法規制に対して組織の違反が皆無の場合は、その旨を簡潔に述べるだけでよい。	（該当なし）

社会

項目	指標	該当項目
雇用		
401-1	a. 報告期間中における従業員の新規雇用の総数と比率（年齢層、性別、地域による内訳） b. 報告期間中における従業員の離職の総数と比率（年齢層、性別、地域による内訳）	平和堂の CSR 活動（P11-41）
401-3	a. 育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数（男女別） b. 育児休暇を取得した従業員の総数（男女別） c. 報告期間中に育児休暇から復職した従業員の総数（男女別） d. 育児休暇から復職した後、12 ヶ月経過時点で在籍している従業員の総数（男女別） e. 育児休暇後の従業員の復職率および定着率（男女別）	平和堂の CSR 活動（P11-41）
労働安全衛生		
403-2	a. すべての従業員に対する業務上傷害の種類、業務上傷害率（IR）、業務上疾病率（ODR）、休業日数率（LDR）、欠勤率（AR）、および業務上の死亡者数（次の内訳による） i. 地域 ii. 性別 b. 業務または職場が組織の管理下にあるすべての労働者（従業員を除く）に対する業務上傷害の種類、業務上傷害率（IR）、および業務上の死亡者数（次の内訳による） i. 地域 ii. 性別 c. 災害統計の記録、報告に適用する規則体系	平和堂の CSR 活動（P11-41）
研修と教育		
404-2	a. 従業員のスキル向上のために実施したプログラムの種類、範囲や、提供した支援 b. 継続的な雇用適性を促がすために提供した移行支援プログラムと、定年退職や雇用終了マネジメント	平和堂の CSR 活動（P11-41）
ダイバーシティと機会均等		
405-1	a. 組織のガバナンス組織に属する個人で、次の多様性区分に該当する者の比率 i. 性別 ii. 年齢層：30 歳未満、30 歳～ 50 歳 、50 歳超 iii. 該当する場合には、その他の多様性指標（例えばマイノリティ、社会的弱者など） b. 次の多様性区分の従業員区分ごとの従業員の比率 i. 性別 ii. 年齢層：30 歳未満、30 歳～ 50 歳 、50 歳超 iii. 該当する場合には、その他の多様性指標（例えばマイノリティ、社会的弱者など）	多様な人材の雇用（P26）
結社の自由と団体交渉		
407-1	a. 労働者の結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー。次の事項に関して i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 b. 結社の自由や団体交渉の権利行使を支援するため、組織が報告期間中に実施した対策	（該当なし）
児童労働		
408-1	a. 次の事例に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー i. 児童労働 ii. 年少労働者による危険有害労働への従事 b. 児童労働に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー（次の観点による） i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 c. 児童労働の効果的な根絶のために報告期間中に組織が実施した対策	（該当なし）
強制労働		
409-1	a. 強制労働に関して著しいリスクがあると考えられる事業所およびサプライヤー。次の事項に関して i. 事業所（製造工場など）およびサプライヤーの種類 ii. リスクが生じると考えられる事業所およびサプライヤーが存在する国または地域 b. あらゆる形態の強制労働を撲滅するために報告期間中に組織が実施した対策	（該当なし）
先住民族の権利		
411-1	a. 報告期間中に、先住民族の権利を侵害したと特定された事例の総件数 b. 事例の状況と実施した措置（次の事項を含める） i. 組織により確認された事例 ii. 実施中の救済計画 iii. 実施済みの救済計画と、定期的な内部マネジメント・レビュー・プロセスにより確認された結果 iv. 措置が不要となった事例	（該当なし）
人権アセスメント		
412-1	a. 人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率（国別に）	（該当なし）
地域コミュニティ		
413-1	a. 事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラム（次のものを活用したものなど）を実施したものの比率： i. 一般参加型アプローチに基づく社会影響評価（ジェンダー影響評価を含む） ii. 環境影響評価および継続的なモニタリング iii. 環境および社会影響評価の結果の公開 iv. 地域コミュニティのニーズに基づく地域コミュニティ開発プログラム v. ステークホルダー・マッピングに基づくステークホルダー・エンゲージメント計画 vi. 広範なコミュニティ協議委員会や各種プロセス（社会的弱者が参画するもの） vii. 影響に対処するための労使協議会、職業安全衛生委員会、その他従業員代表機関 viii. 正式な地域コミュニティ苦情処理プロセス	平和のハト（P30-41） 平和堂財団の活動（P46-47）
413-2	a. 地域コミュニティに対して著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）を及ぼす事業（次の事項を含む） i. 事業所の場所 ii. 事業の及ぼす著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）	（該当なし）
サプライヤーの社会面のアセスメント		
414-2	a. 社会的インパクト評価の対象としたサプライヤーの数 b. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定したサプライヤーの数 c. サプライチェーンで特定した著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的） d. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、改善の実施に同意したサプライヤーの割合 e. 著しいマイナスの社会的インパクト（顕在的、潜在的）があると特定されたサプライヤーのうち、評価の結果、関係を解消したサプライヤーの割合およびその理由	（該当なし）
顧客の安全衛生		
416-2	a. 報告期間中に、製品やサービスについて発生した安全衛生インパクトに関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例 ii. 警告の対象となった規制違反の事例 iii. 自主的規範の違反事例 b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる	（該当なし）
マーケティングとラベリング		
417-3	a. マーケティング・コミュニケーション（広告、宣伝、スポンサー業務など）に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数。次の分類による i. 罰金または処罰の対象となった規制違反の事例 ii. 警告の対象となった規制違反の事例 iii. 自主的規範の違反事例 b. 規制および自主的規範への違反が無い場合は、その旨を簡潔に述べる	（該当なし）
社会経済面のコンプライアンス		
419-1	a. 社会経済分野の法律や規定の違反により受けた相当額以上の罰金および罰金以外の制裁措置（次の事項に関して） i. 相当額以上の罰金の総額 ii. 罰金以外の制裁措置の総件数 iii. 紛争解決メカニズムに提起された事案 b. 組織による法規制への違反が皆無の場合は、その旨を簡潔に述べるだけでよい c. 相当額以上の罰金および罰金以外の制裁措置を受けた経緯	（該当なし）

CSR活動を通して「地域共創」を実践していきます。

「平和堂 CSR 報告書 2019」に対し、昨年を大きく上回る1,355名の読者からアンケートの回答をいただきました。2019 年版では、平和堂の経営理念である、「奉仕のハト」「創造のハト」「感謝のハト」「友愛のハト」「平和のハト」の 5 項目に章立てしました。また巻頭特集では、「地域密着のライフスタイル総合（創造）企業」の実現に向けた取組みのひとつである“地域の健康”をテーマに、具体的な事例を掲載しました。

CSR報告書2019

わかりやすい+ややわかりやすい
昨年より
△2.9
ポイントDOWN

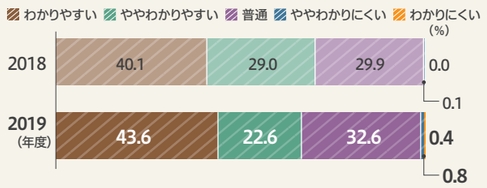
内容の充実+やや充実
昨年より
△3.1
ポイントDOWN

トピックス　読者のお声

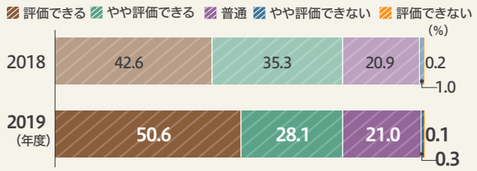
- トップメッセージ・特集では、地域に密着した会社として「地域共創」をキーワードにその取組みや、未来に向けたトップの想いが解かりやすく紹介してあり、とても読みやすかったです。
- 「VOICE」は思いがより強く伝わってきました。特にお客様の声やご利用者の声は、どんな説明より良さが伝わってきました。
- 高齢者へのサービスを充実させていくべきかと思います。
- 近年、ネットショッピング市場が広がりつつありますが、従業員との会話を楽しみにして下さるお客様の声など、ネットでは生み出せない付加価値が店舗にはあるのだと改めて思いました。
- 災害が起きた時の危機管理対策や、法令順守を企業としてどう徹底していくのかが期待されます。
- 「お客様満足度向上に向けた ICT の活用」について、より詳しい説明と今後の展望を知りたいです。

アンケート集計結果

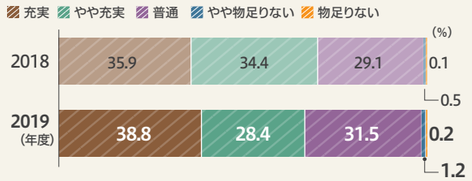
わかりやすさ



平和堂のCSR活動への評価



内容の充実度



印象に残った、または興味をもたれた内容

ベスト5

1．トップメッセージ
2．平和堂グループの価値創造
3．平和堂ストアブランドE-WA!
4．地産地消の推奨
5．お客様の声に基づく企業経営

（回答者数1,355名）※数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

地域共創というテーマと全体の特徴

今回の CSR 報告書の巻頭特集は「地域共創」です。経営学の大家マイケル・ポーターのいう CSV（Creating Shared Value；共通価値の創造）と通ずる考え方です。地域課題を解決し社会価値を創造する。そして社会価値からビジネスを作り出す。具体例として、トップメッセージで紹介された、地元農作物を利用した彦根梨・モリヤマメロンのチューハイから始まって、巻頭特集での1. 地域の健康サポート、 2. 高齢者向けのホーム・サポートサービス、3. ライフスタイル提案、といったさまざまな取組みを示し、平和堂が目指すかたちを実例によって伝えています。

全体を通じ、関係者の顔写真と声（VOICE 欄）を添えて物語るのは、読者にとって親しみやすく、理解しやすい方法です。「トピックス・読者のお声」（P.54）でも高く評価されていますが、VOICE（○○の声）は平和堂の CSR 報告書ならではの温かみと信頼性を体現しています。

エピソードや参加者の声に合わせて、具体的数値が取り上げられています。地場産農産物売上金額40億5,328 万円（P.15）、取引先の満足度の平均値が 85.9%（P.22）、社内向け「平和堂コミュニケーションサイト」アカウント取得数が 3,011 名（P.24）。これらの数値は、それぞれの取組みが実質を伴う証拠となっております。

共創の深化のために

トップメッセージでは地域共創ループとして、域内消費→地域経済の活性化→域内雇用→域内所得→（ふたたび「域内消費」へ）、という好循環のイメージを示しています（P.5）。このイメージがどのように実現されているのか。毎年度とは言いませんが、数年に一度くらいの間隔で定量的に示していただくと、地域社会が平和堂の取組みをしっかりと認識できます。くわえて、地域共創に向けた取組みが全体の企業活動のなかでどのくらいの比率を占めるのかを示していただくと良いと思います。たとえば、地場産農産物売上は農産物全体のうちでどのくらいの比率なのでしょうか。

また、日本では地球温暖化問題への関心がやや薄れているようにも思えますが、世界では取組みの強化が求められています。2030年には世界全体で二酸化炭素などの温暖化ガスの排出量を約45%減らし、2050年前後には正味ゼロにしていこうという動きです。今回の地域共創というテーマと結びつけた、平和堂らしい先を見通したビジョンを示していただければと思います。

大学で環境問題について講義をしますと、学生からは「それでは私は何をすればよいのですか？」と聞かれることがあります。企業にとっては挑戦的かもしれませんが、顧客などのステークホルダーへの「○○しませんか」という率直な呼びかけがあっても良いのではないでしょうか。

2020年4月時点で新型コロナウイルス感染拡大が続いております。これまでの取組みに合わせて、この課題にも地域共創として取り組まれることを期待しております。

滋賀県立大学 教授
高橋 卓也

プロフィール
1965年生まれ。滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科。専門分野は、環境経営、森林政策・計画。一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク副会長。

第三者意見を受けて

専務取締役管理本部長　夏原 行平

「平和堂CSR報告書2020」への評価と、貴重なるご意見を賜りありがとうございました。弊社が掲げる「地域共創」の取組み、特に「地域の健康」については、ご来店いただくお客様の健康だけでなく、地域全体での健康を目的とした活動を推進しており、一定の評価をいただきました。また、地域循環への貢献について、企業活動の中での位置づけや、先を見通したビジョンの明示などをご指摘いただきました。

これらの点について、社内で整理を実施し、企業としてより明確な方向性が示せるよう取り組んでまいります。持続可能な社会の実現に向け、SDGsをはじめとする国際的なイニシアティブが求められる現代、企業として何ができるのか更に深耕してまいります。

アンケート回答のお願い

「平和堂CSR報告書2020」をお読みいただきありがとうございました。今後も積極的にステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図りながら、より効果的な取組みや、より良いレポートづくりを進めていきたいと考えています。レポートについてのご意見やご感想また当社グループの取組みに関するご要望などございましたら、ぜひお聞かせください。

▶弊社ホームページ「平和堂 CSR 報告書」アンケート

アドレス **https://mobile.heiwado.jp/csr/**

もしくは、平和堂ホームページ ➡ 環境・社会活動 ➡ CSR 報告書ページ から